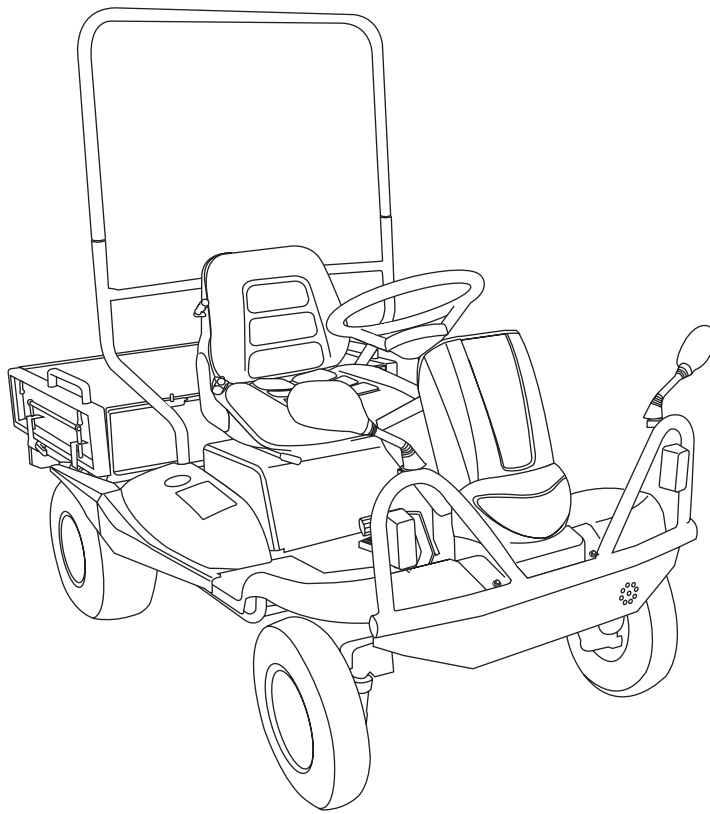


小型特殊自動車 ああ～おふくろさんヨ

J67

取扱説明書



ああ～おふくろさんヨ

⚠ 警告

- ・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
- ・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

3731 6501 000

株式会社 筑水キャニコム

<http://www.canycom.co.jp/>

〒839-1396 福岡県うきは市吉井町福益90-1

ご注文、製品に関するお問合せは

アドバンスオーダーセンター

TEL (0943) 75-8055 FAX (0943) 75-8060

部品、修理に関するお問合せは

パーツ・サービスセンター

TEL (0943) 75-3170 (代) FAX (0943) 75-5861

連絡先控え（販売店名）

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。

また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。

なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

警告

- ・ 本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
- ・ 本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- ・ 本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

警告





- ・ 本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- ・ 本製品は農業用の運搬車です。それ以外の用途では使用しないでください。
- ・ 本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

アドバイス

- ・ 本製品は市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。交付申請の方法は「8. 小型特殊自動車登録申請の手引き」を参照してください。なお、公道運転時には、小型特殊自動車を運転することができる免許（小型特殊免許、普通免許、自動二輪免許など）が必要です。運転時は、必ず免許証を携帯してください。
-

警告用語について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意味
 危険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
 警告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
 注意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
 アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

保証とアフターサービスについて

保証について

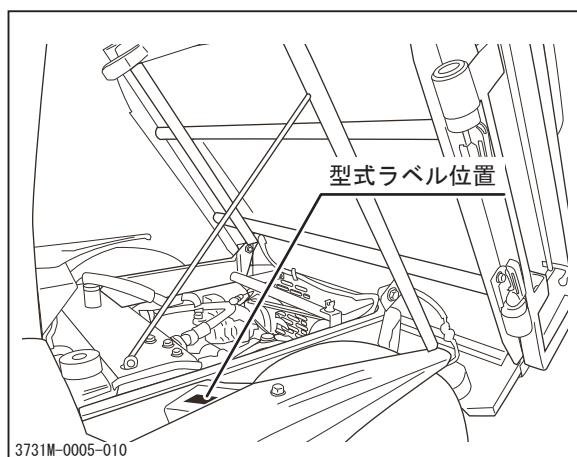
当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。

搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の「本製品の仕様」を参照してください。（☞12ページ）

型式ラベル位置



型式ラベル



補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

目 次

1. 安全に関する注意事項 1

本製品に添付してある警告ラベルについて	1
安全運転・作業のための心得	3
運転前の心得	3
走行時の心得	4
積載時の心得	5
駐車時の心得	6
整備時の心得	7

2. 各部の名称とはたらき 8

各部の名称とはたらき	8
------------------	---

3. 製品仕様 12

本製品の仕様	12
付属品明細	13

4. 運転と操作 14

運転前の準備	14
始業点検	14
燃料の点検と補給	14
ハンドル位置の調節	15
シート位置の調節	17
走行ペダル位置の調節	18

運転のしかた	19
始動のしかた	19
運転のしかた	22
方向指示器のつかいかた	24
停止のしかた	25
副変速操作のしかた	26
2WD⇔AWD（四輪駆動）の切り替えかた	27
後輪スリップ時の回避のしかた	28
駐車のみかた	29
作業のしかた	31
荷台の上げかた	31
荷台落下防止棒の操作	31
側版のスライド操作	32
側版および前ドアの開閉（可倒式サイドフレーム仕様）	33

5. 保守・お手入れ 34

定期点検表	34
エンジンの点検	34
車両の点検	35
給油・給水一覧表	37
給脂一覧表	38
消耗部品（交換部品）一覧表	39
カバーの開けかたおよび取り外しかた	40
フロントカバーの取り外しかた	40
ヘッドランプの取り外しかた	41
エンジンカバーの開けかた	41
シートの開けかた	42
ステップの取り外しかた	42
リアカバー下の取り外しかた	42

エンジン	43
エンジンオイルの点検・補給・交換	43
エアクリーナの清掃・交換	45
点火プラグの点検・清掃・交換	45
走行装置	46
タイヤ空気圧の点検・調整	46
トランスミッションオイルの交換	47
フロントアクスルオイルの交換	48
HSTオイルの点検・補給	49
走行Vベルトの点検・調整	50
ブレーキの点検・調整	51
電装品	52
バッテリー液の点検・補給・充電	52
ヒューズの点検・交換	54
ライトバルブの交換	55
使用後のお手入れ	57
通常使用後のお手入れ	57
寒冷期使用後のお手入れ	57
長期保管のしかた	58

6. 不具合発生時の処置 59

不具合診断表	58
--------	----

7. 本製品の移送 62

トラックへの積み降ろし要領	62
---------------	----

8. 小型特殊自動車登録申請の手引き 63

小型特殊自動車登録申請の手引き 63

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

- ・ エンジン取扱説明書
- ・ バッテリー取扱説明書

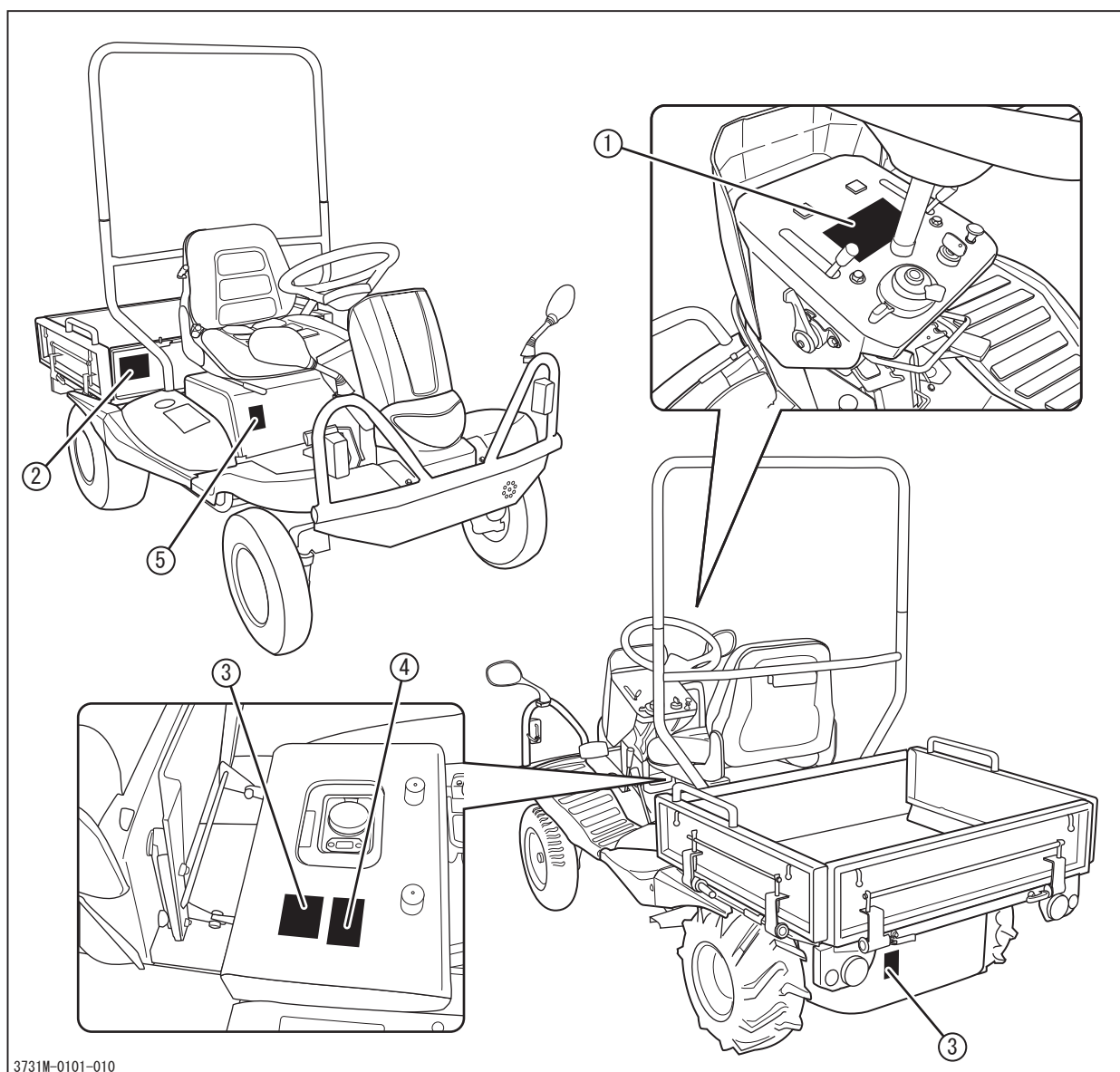
※本書とあわせて必ずお読みください。

本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。

この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用するには必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。






- ・ 警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。
- ・ 警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。
- ・ 警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。



① 3731 6012 000

入 デフロック	⚠ 注意	AWD⇄2WD
	<ul style="list-style-type: none"> ・通常走行時は2WDで、デフロックは「切」の状態で行ってください。 ・2WD⇄AWD、副変速およびデフロックの操作は停車時に行ってください。 ・走行ペダルから急に足を離すと、急ブレーキがかかります。傾斜地では転倒の恐れがありますので注意してください。 	
切		

② 3714 6018 000

⚠ 危険	⚠ 危険	⚠ 警告
		
坂道でギヤ抜けると、死傷するおそれがありますので、確実にギヤを入れてください。	荷台が落下すると、死傷するおそれがありますので、確実に荷台を支えてください。	取扱説明書を読んで、理解するまでは、本機の運転および保守・点検を行わないでください。
⚠ 危険	⚠ 危険	⚠ 警告
		公道乗車定員 1名
積荷が片寄ると、車体が転倒し、死傷するおそれがありますので、必ず積荷は均等に載せ、ロープ等で固定してください。	傾斜地の走行では、急停止やわずかな段差でも車体の転倒が起こり、死傷するおそれがありますので慎重に走行してください。	本機の公道乗車定員は1名です。同乗者を伴う運転は重心の移動等が起り大変危険です。運転者以外は絶対に乗車しないでください。

③ 5321 5024 000

⚠ 警告

<ul style="list-style-type: none"> ・カバーを取り外したまま運転を行わないでください。 ・巻き込まれるおそれがあります。 ・整備時はエンジンを停止してください。 ・巻き込まれるおそれがあります。

④ 3655 6015 000

⚠ 警告

高温部に触れると火傷します。高温部付近で作業する時は、充分冷えた後におこなってください。

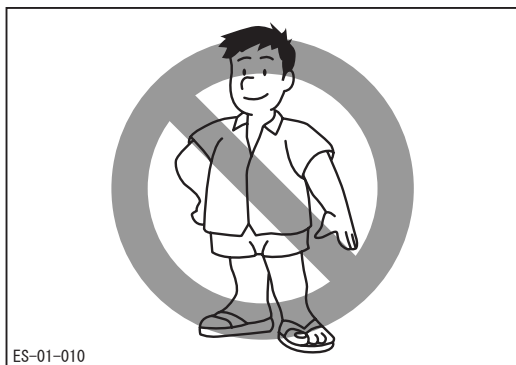
⑤ 5332 5032 000

⚠ 注意
シートをスライドするときは、レバーを右方向へ引いてからゆっくりスライドしてください。
スライド後はレバーを戻し、確実にロックしていることを確認してください。

安全運転・作業のための心得

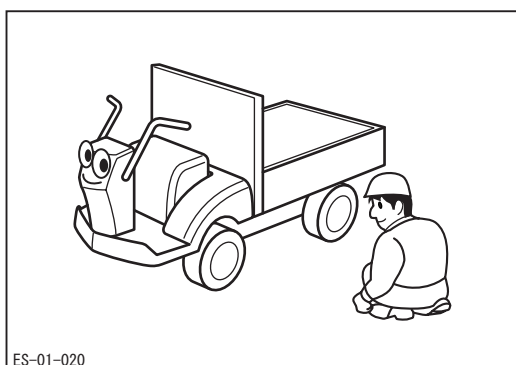
運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

運転前的心得



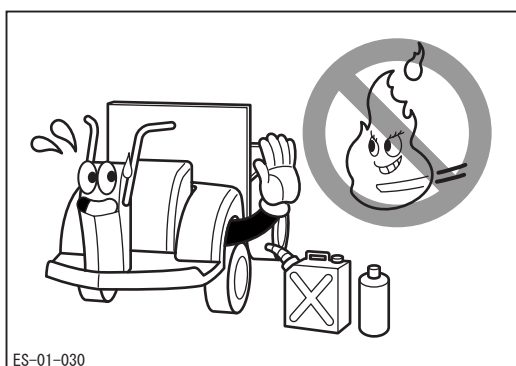
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服装を心がけ、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



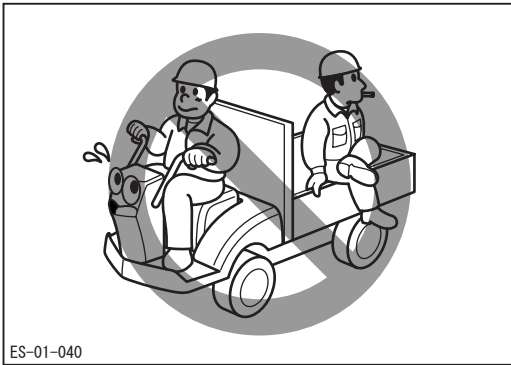
始業点検の励行

運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。

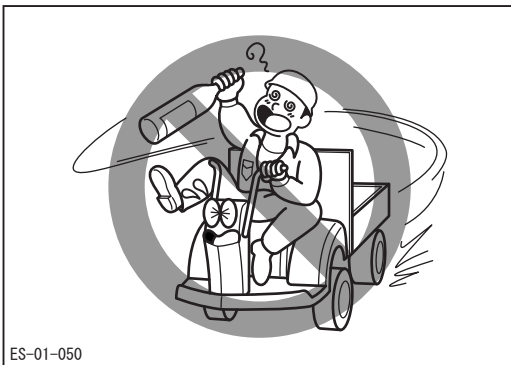


火気厳禁

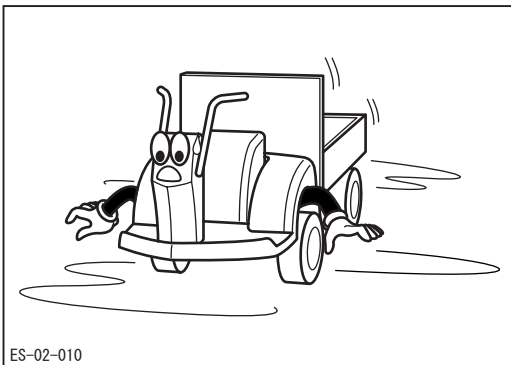
燃料、油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、バッテリーの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。

**同乗禁止**

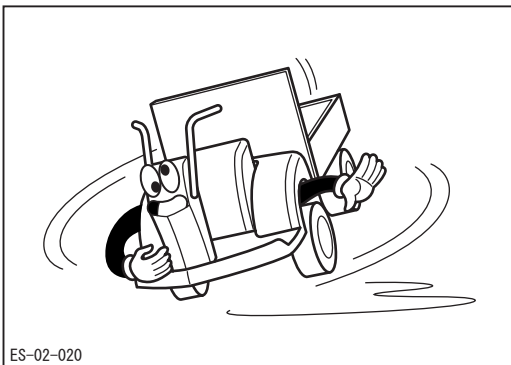
本製品は一人乗りです。運転者以外は乗せないでください。

**無謀運転禁止**

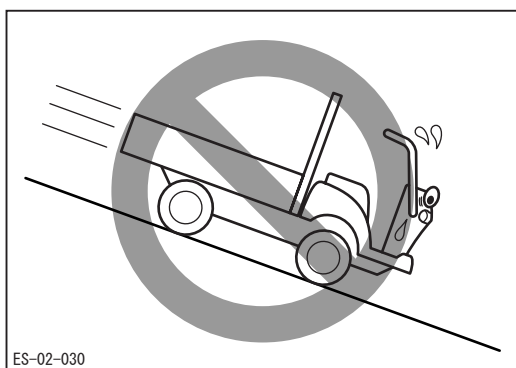
飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない若年者による運転・作業も行わないでください。

走行時の心得**安全速度遵守**

発進の前には必ず周囲の安全を確認し、走行時は走行路の勾配、路面の状態に応じた安全速度で走行してください。

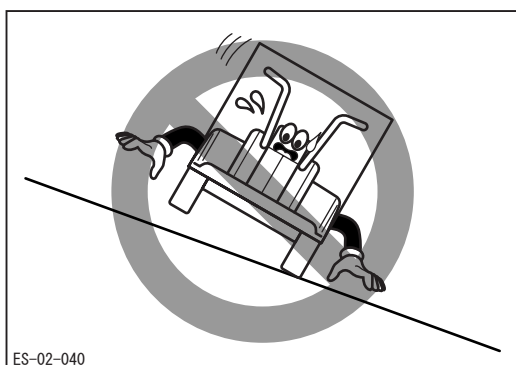
**急発進、急加速、急旋回、急停止の禁止**

急発進、急加速、急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。



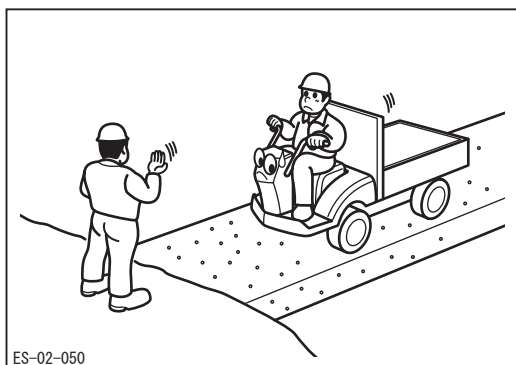
下り坂では低速で走行する

下り坂の前で一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、下るときにはエンジブレーキを使用しながら低速で走行してください。



斜面の横断禁止

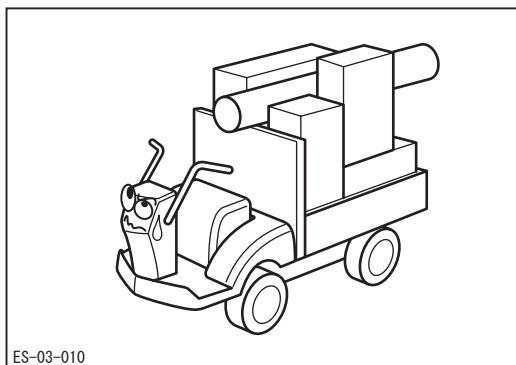
斜面はまっすぐ上り下りし、斜面を横断しないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。また、斜面での旋回は乗車姿勢が不安定になり危険ですので、行わないでください。



危険な場所では誘導者の指示に従う

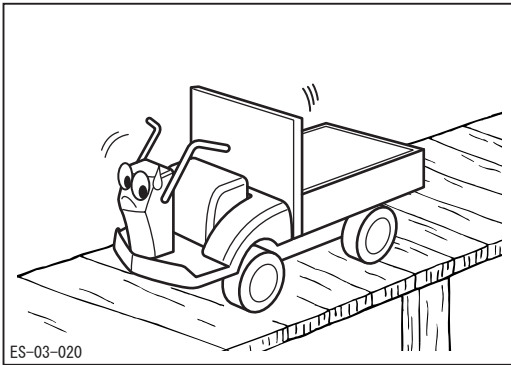
見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

積載時の心得



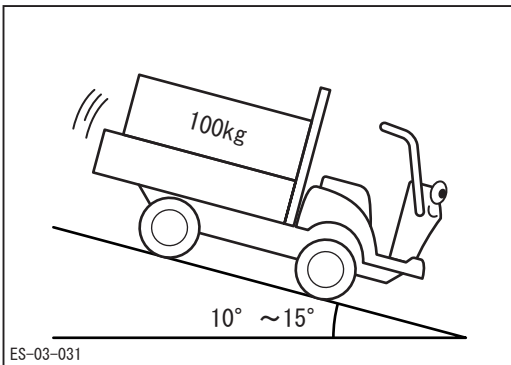
過積載禁止

本製品の最大作業能力を超える積載はしないでください。



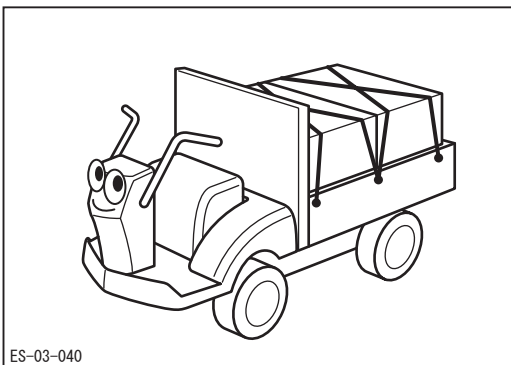
制限重量に注意

木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



傾斜地での積載量に注意

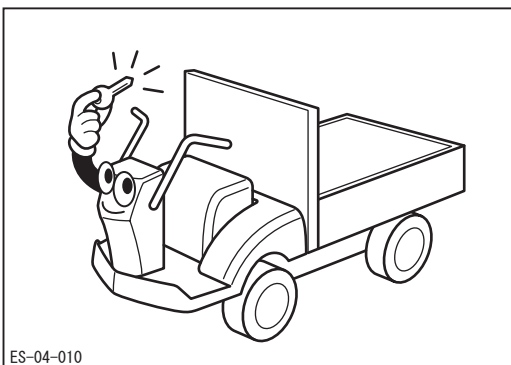
10° ~ 15° の傾斜地では、積載量を100kg以下にして走行してください。15° を超える急傾斜地では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転してください。



積荷は正しく載せる

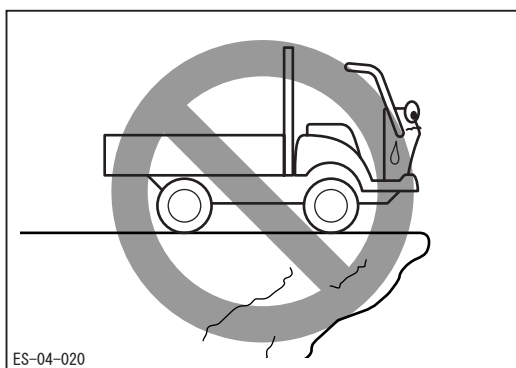
積荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定してください。また、積荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

駐車時の心得



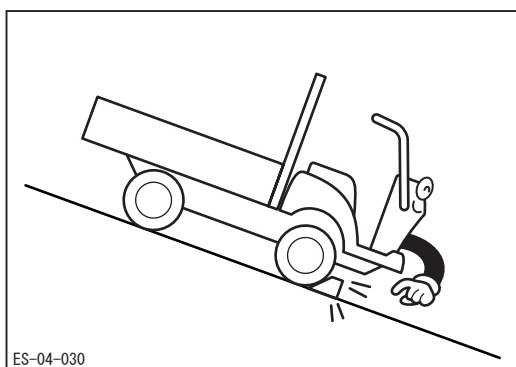
駐車時の安全確認

駐車時には必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。また、キーを忘れずに抜いてください。



危険な場所での駐停車禁止

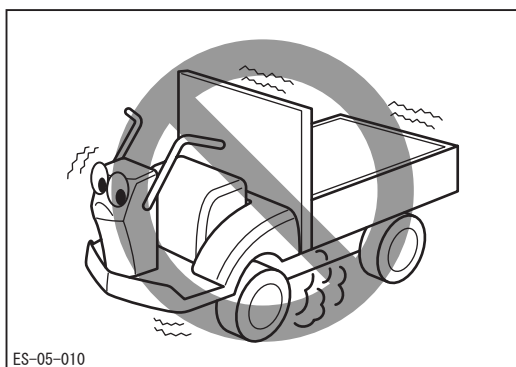
駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。



傾斜地での輪止め励行

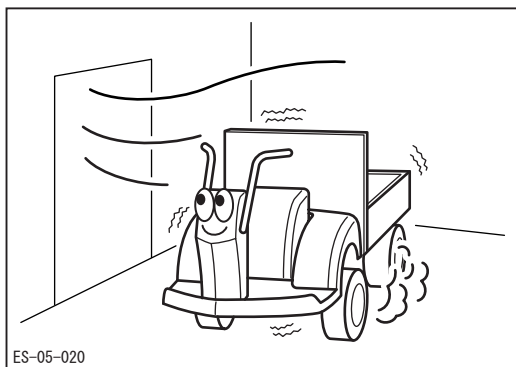
傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。

整備時の心得



エンジン回転中の整備禁止

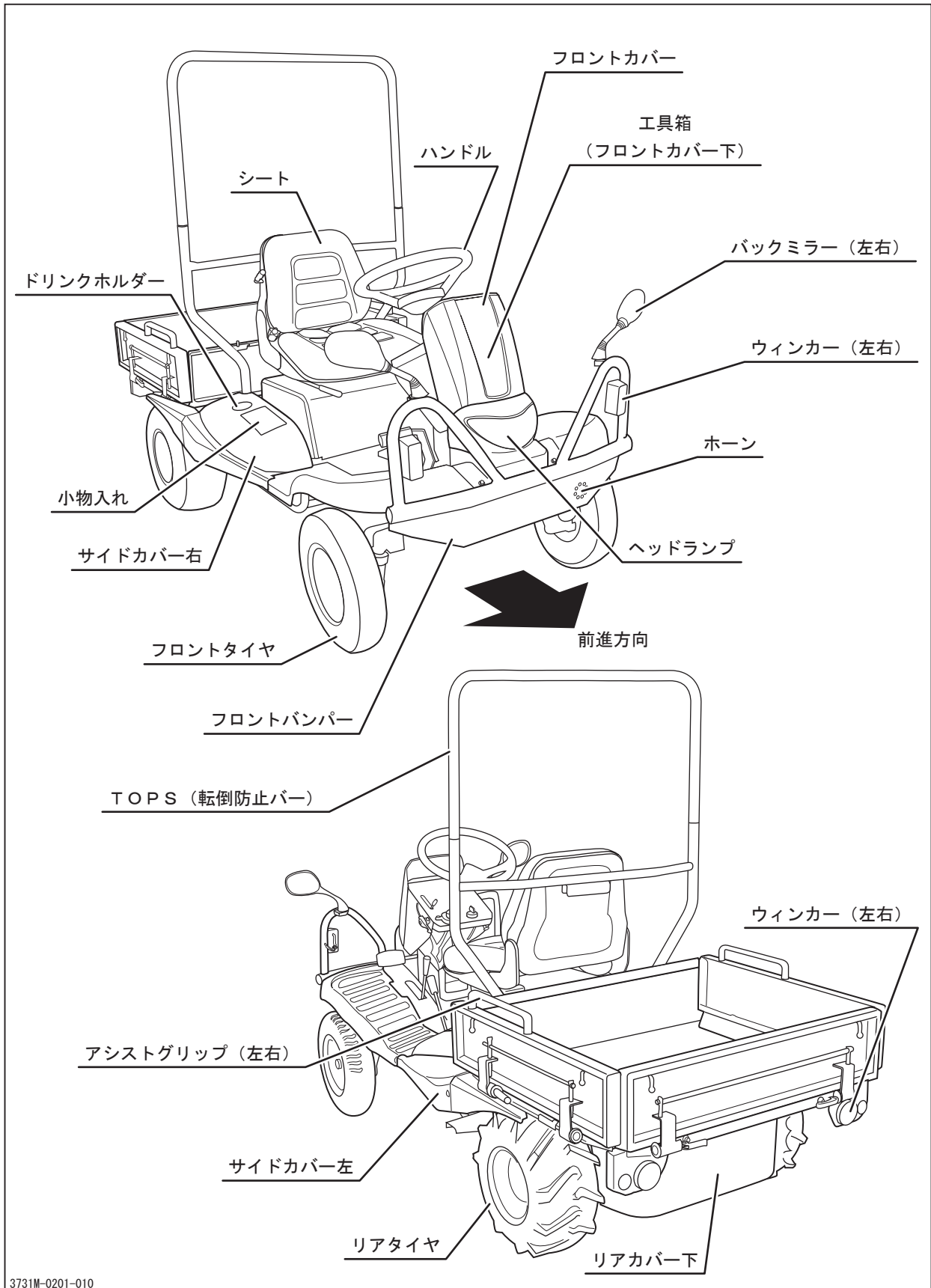
エンジン回転中は整備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備を行ってください。



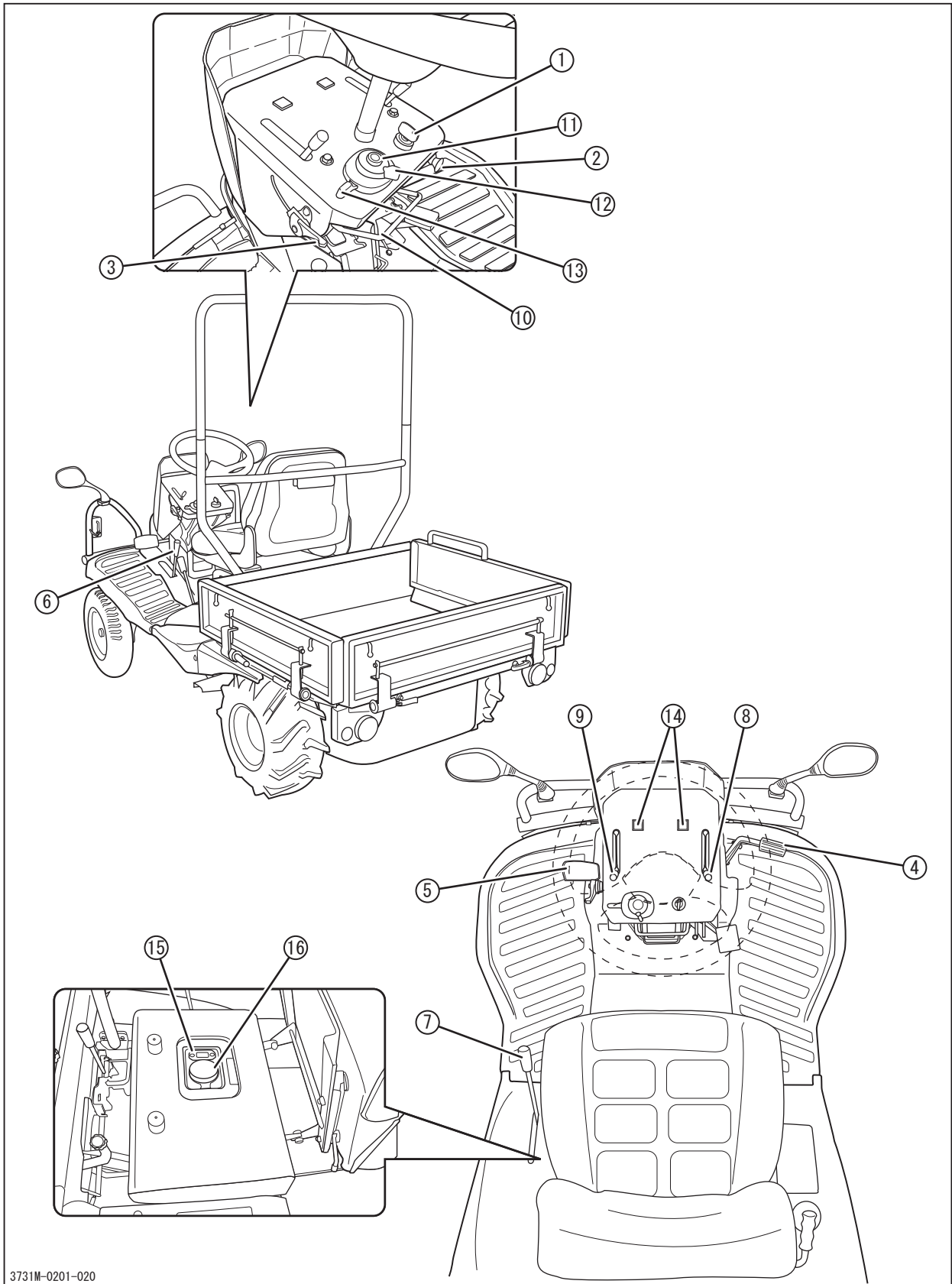
換気に注意

室内でエンジンを運転する場合は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくして作業を行ってください。

各部の名称とはたらき



3731M-0201-010



3731M-0201-020

- 1 メインスイッチ ……エンジンを始動および停止するときに使用します。
- 2 チョークノブ ……エンジンを始動するときに使用します。チョークバルブの開閉を行います。
- 3 アクセルレバー ……エンジン回転数を増減するときに使用します。
- 4 走行ペダル ……車両を走行するときに使用します。ペダルの前方を踏み込むと前進し、後方を踏み込むと後進します。ペダルを踏み込む量により走行速度を無段階に調整します。
- 5 ブレーキペダル ……車両を停止するときに使用します。
- 6 駐車ブレーキロックレバー ……車両を駐車するときに使用します。ブレーキペダルを踏み込んだ状態でレバーを手前に引くとブレーキペダルがロックされます。
- 7 副変速レバー ……車両の走行速度を切り替えるときに使用します。積載時および傾斜地では低速で走行してください。
- 8 2WD⇄AWD切替レバー ……2WD（後輪駆動）とAWD（四輪駆動）を切り替えるときに使用します。
- 9 デフロックレバー ……後輪がスリップするときに使用します。レバーを[入]の位置に入れるとデフロックの状態になります。
- 10 ハンドル角度調節レバー ……ハンドル角度を調節するときに使用します。
- 11 ホーンボタン ……ホーンを鳴らすときに使用します。
- 12 ヘッドランプスイッチ ……ヘッドランプを点灯および消灯するときに使用します。
- 13 ウィンカースイッチ ……ウィンカーを点滅するときに使用します。スイッチを上にかすと右のウィンカー、下にかすと左のウィンカーが点滅します。
- 14 ウィンカーインジケータ ……ウィンカーと合わせて点滅し、ウィンカーが点滅中であることを示します。

15 燃料計 燃料の残量を表示します。

16 燃料タンクキャップ 給油をする時に使用します。

本製品の仕様

 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名 称 ・ 型 式			J67		
			標準仕様	果樹園仕様	
機 械 質 量		kg	310	300	
最 大 作 業 能 力		kN(kgf)	1.97 (200)		
機 械 寸 法	全 長	mm	2140		
	全 幅	mm	1020 <1200>		
	全 高	mm	1720	1090	
	ホ イ ー ル ベ ー ス	mm	1300		
	ト レ ッ ド	mm	前 860 / 後 800		
	最 低 地 上 高	mm	125		
荷 箱 寸 法	荷 箱 寸 法	長 さ	750 <900>		
		幅	910 <1100>		
		高 さ	150 [230]		
エ ン ジ ン	名 称		スバルEX17		
	形 式		空冷4サイクル単気筒ガソリン		
	シリンダ(内径×行程)		mm	67×48	
	総 排 気 量		cm ³	169	
	最 大 出 力		kW(PS)	4.2 (5.7)	
	最 大 ト ル ク		N・m(kgf・m)	11.3 (1.15)	
	始 動 方 式		セルフスタータ式		
	使 用 燃 料		自動車用無鉛ガソリン		
	燃 料 消 費 率		g/PS・h	274	
	燃 料 タ ン ク 容 量		ℓ	3.6	
	点 火 方 式		無接点式マグネット点火		
	点 火 プ ラ グ 品 番		NGK BR4HS		
	電 装	バ ッ テ リ 形 式		40B19R	
バ ッ テ リ 容 量		V	12		
バ ッ テ リ 10 時 間 率 容 量		Ah	23		

<>内はサイドフレーム延長時

[]内は可倒式サイドフレーム仕様を示す。

名 称 ・ 型 式				J67	
				標準仕様	果樹園仕様
性	走行速度	高速	前進	km/h	0～14.0(無段変速)
			後進		0～9.2(無段変速)
	低速	前進	後進	km/h	0～8.0(無段変速)
					0～5.2(無段変速)
最小回転半径			m	1.75 (2WD時)	
登坂能力			度	20 (空車)	
能	最大安定傾斜角度	左	度	30 以上	
		右	度	30 以上	
走	主変速形式			H S T (無段変速)	
	副変速形式			常時噛合式	
行	タイヤ	前輪		HC4.00-8 (6PR)	
		後輪		17×8.00-8 (4PR) <18×8.50-8 (4PR)>	
装	ステアリング形式			ラック&ピニオン式 丸ハンドル	
	ブレーキ形式			内拡式ブレーキ	

<>内はターフタイヤ仕様車を示す。

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部 品 名	個 数	備 考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	エンジン工具	1	エンジン整備用

運転前の準備

始業点検

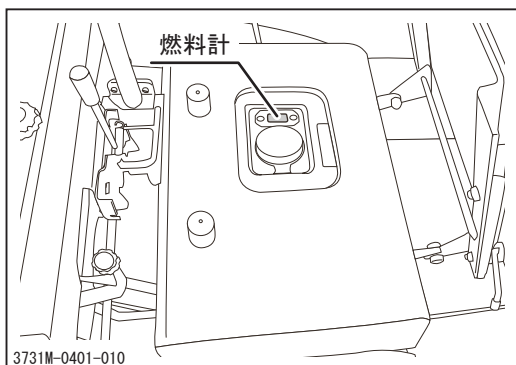
運転前には必ず始業点検を行ってください。

点検の要領については「定期点検表」(☞34ページ)を参照してください。

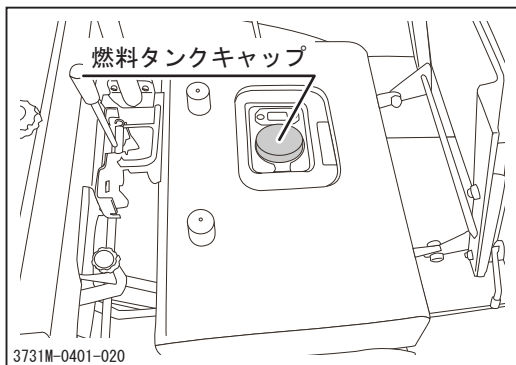
燃料の点検と補給

警告

- ・ 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- ・ 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- ・ 給油は油面上限（給油口内フィルタ底面）以下になるようにして、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。



1. 燃料計を確認し、燃料が不足している場合は、燃料を補給します。



2. 燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。
3. 燃料タンクキャップを確実に閉めます。

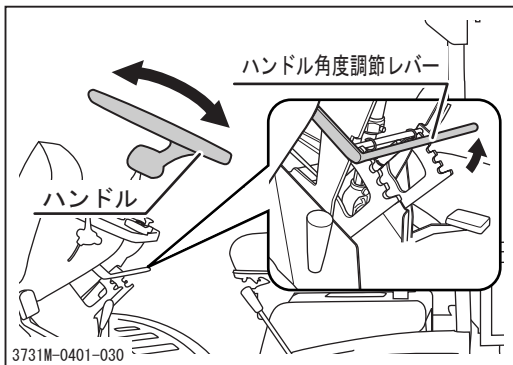
アドバイス

- ・ 使用燃料：自動車用無鉛ガソリン
- ・ 燃料タンク容量：3.6ℓ

ハンドル位置の調節

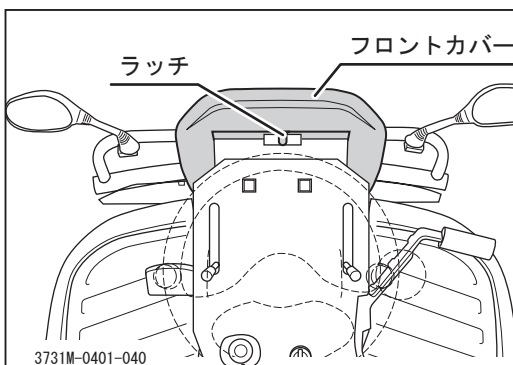
⚠ 注意

- ・ハンドルの調節後は、ハンドルを前後上下に動かし、確実に固定されていることを確認してください。



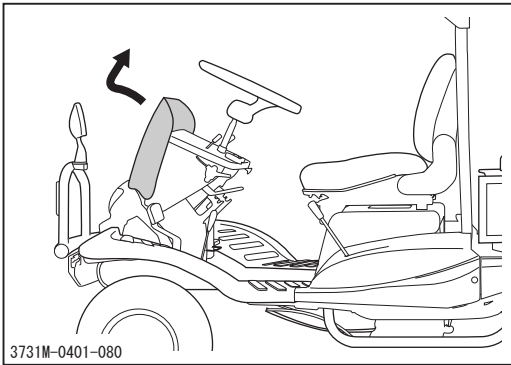
角度の調節

1. ハンドル角度調節レバーを上げながらハンドルを動かし、ハンドル角度を調節します。
2. ハンドル角度は3段階に調節することができます。
3. 調節後、ハンドル角度調節レバーを戻し、ハンドルを確実に固定します。



高さの調節

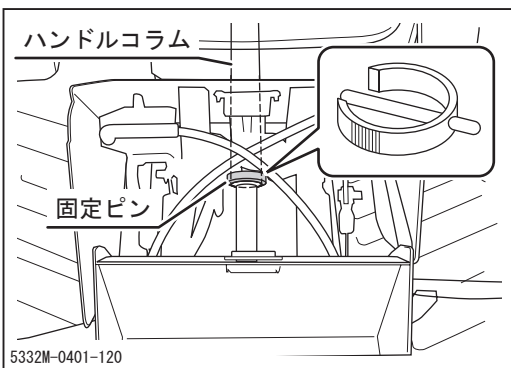
1. フロントカバーの上端を引いてラッチを解除します。



2. カバーを引き抜きます。

👉 **アドバイス**

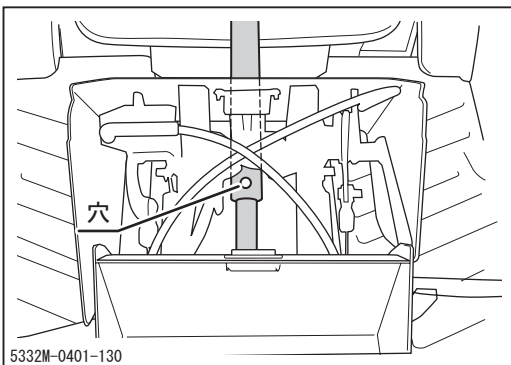
- ・フロントカバーの中は工具箱になっています。工具などの収納にお使いください。



3. 車体前部より、ハンドルコラムを固定しているピンを取り外します。

👉 **アドバイス**

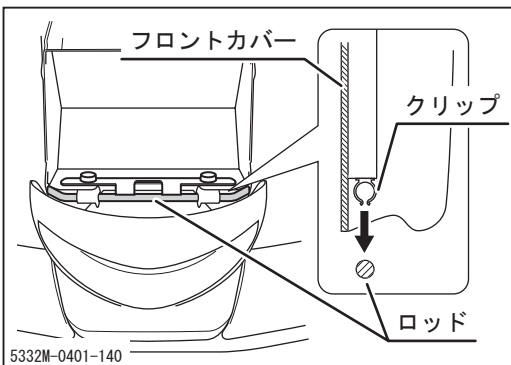
- ・ピンが取り外しにくい方向を向いているときは、ハンドルを切ってピンを抜きやすい方向にします。



4. ハンドルを好みの高さに合わせ、穴の位置に合わせてピンで固定します。

👉 **アドバイス**

- ・ハンドルを上下に動かして、確実に固定されていることを確認してください。



5. ハンドル角度を上げます。
6. フロントカバー裏側のクリップをロッドにはめ込みます。
7. フロントカバー上部をはめ込みます。

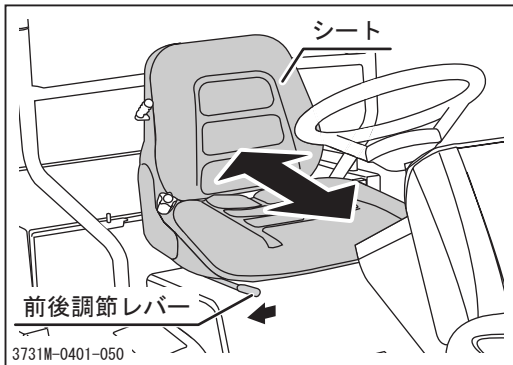
👉 **アドバイス**

- ・フロントカバー取り付け時に、フロントカバーが左右のプレートに挟み込まれないように注意してください。

シート位置の調節

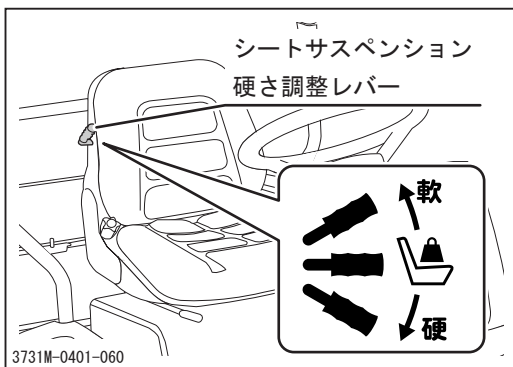
⚠ 注意

- ・ シートの調節時に手や指をはさまないように十分注意してください。
- ・ シートの調節後は、シートを前後に動かし、確実に固定されていることを確認してください。



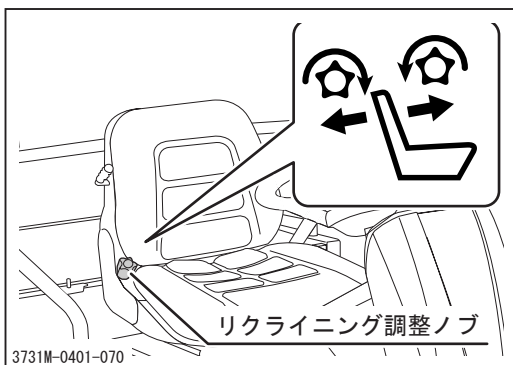
前後の調節

1. 前後調節レバーを外側に押し、シートを前後にスライドして調節します。
2. 調節後、レバーを戻し、シートを確実に固定します。



シートサスペンション硬さの調節

1. シートサスペンション硬さ調節レバーを動かして、望みの硬さに調節します。



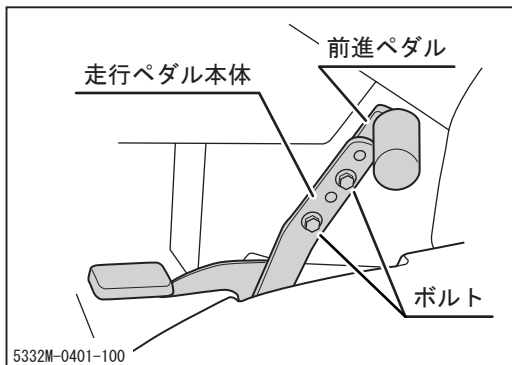
リクライニング角度の調節

1. シート右横のリクライニング調整ノブを回してリクライニング角度を調整します。

走行ペダル位置の調節

⚠ 注意

・ 走行ペダルの調節後は、ペダルが確実に固定されていることを確認してください。



1. 走行ペダル本体に前進ペダルを取り付けているボルト（2本）を外します。
2. 好みの位置に前進ペダルを調節し、ボルトで固定します。

👉 アドバイス

・ 走行ペダルは位置3段階と角度を調節できます。


運転のしかた

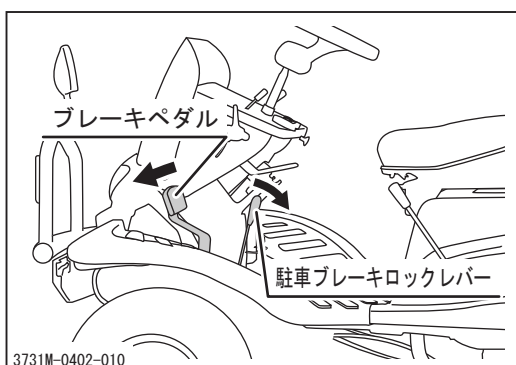
始動のしかた

⚠ 警告

- ・ エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。
- ・ 始動は必ず乗車して行ってください。降車状態での始動は万一の場合に車両にひかれるおそれがあります。

⚠ 注意

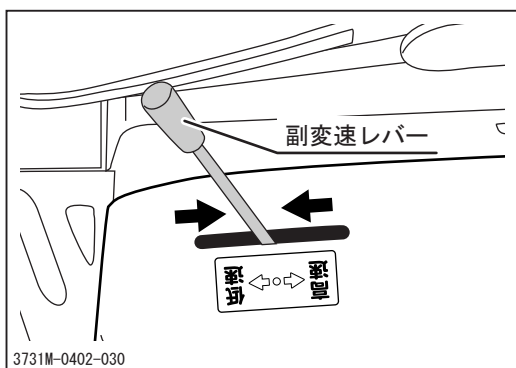
- ・ エンジン回転中は、メインスイッチを[始動]に回さないでください。スタータモータおよびエンジン破損の原因となります。
- ・ 始動時はアクセルレバーを[ (低速)]にして始動してください。
- ・ 15秒以上スタータモータを回さないでください。始動しない場合はメインスイッチを[切]に戻し、30秒以上休んでから再始動してください。
- ・ 数回始動操作をしても始動しない場合は、メインスイッチを[切]にして5~10分程度休んでから再始動してください。
- ・ 冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンや油圧機器の寿命を短くすることになります。



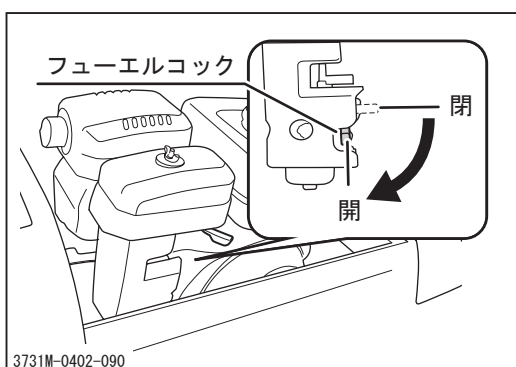
1. ブレーキペダルが1段目（一番奥の段）にロックされていることを確認します。ロックされていない場合は、ブレーキペダルを踏み込みます。

👉 アドバイス

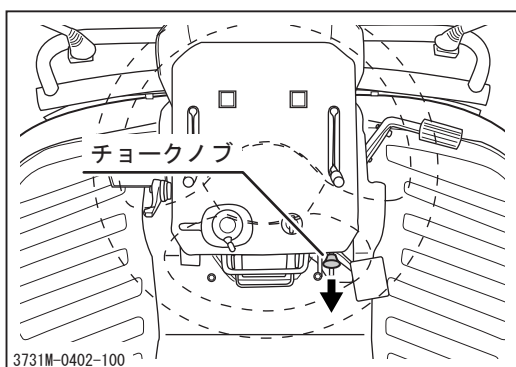
- ・ 本製品は始動安全装置を装備しているため、ブレーキペダルを踏み込まないとエンジンを始動できません。



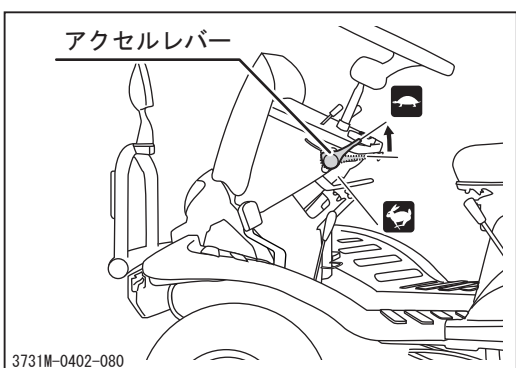
- 副変速レバーが[● (中立)]にあることを確認します。



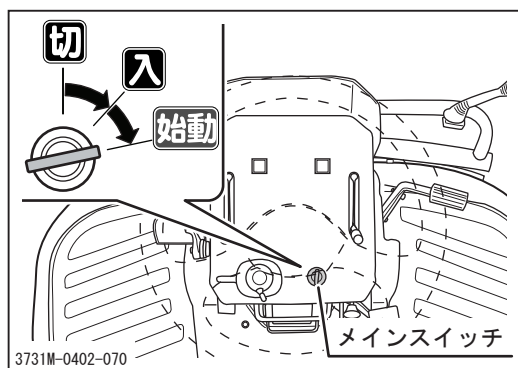
- エンジンカバーを開け (40ページ)、燃料コックを[開]にします。



- チョークノブを引きます。



- アクセルレバーが[(低速)]にあることを確認します。低温時 (0℃以下) の始動においてエンジンの回転が安定しない場合はアクセルレバーを1/3位開いた状態で始動してください。



7. メインスイッチにキーを差し込みます。
8. メインスイッチを[始動]まで回し、エンジンを始動します。始動後はすぐにキーから手を離してください。キーは自動的に[入]に戻ります。
9. 約5分間、無負荷で暖機運転をします。

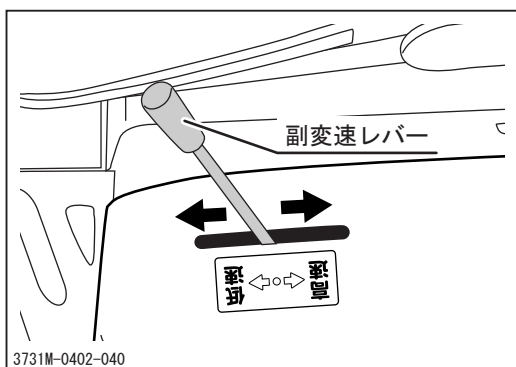
👉 アドバイス

- ・ 頻繁な再始動はなるべく避け、エンジンを始動したら、しばらく連続運転をして、バッテリーを充電するようにしてください。
- ・ 購入後、最初の一週間（約40～50時間）はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

運転のしかた

警告

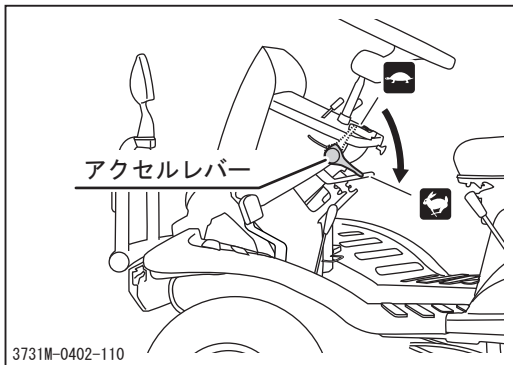
- ・ 運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。
- ・ 発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた速度で走行してください。
- ・ 急発進・急加速・急旋回を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- ・ 積載時および傾斜地では副変速を[低速]にし、低速で走行・旋回してください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- ・ 走行中にメインスイッチを「切」にしないでください。



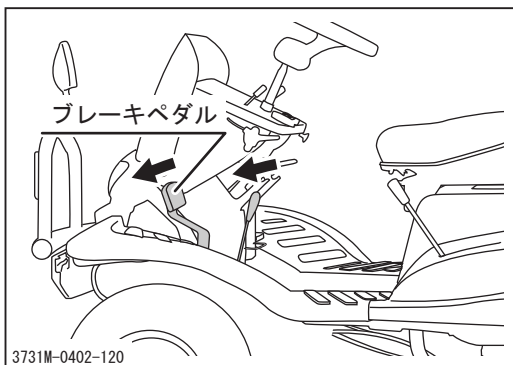
1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 副変速レバーを[低速]または[高速]にします。

アドバイス

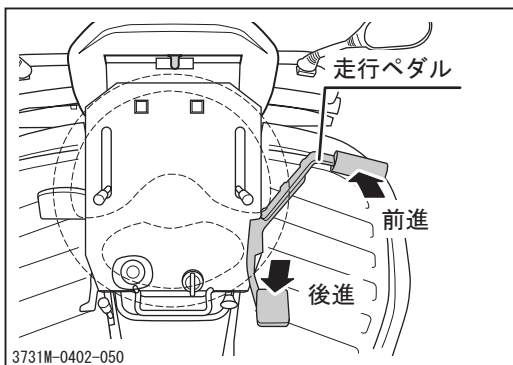
- ・ 各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」(12ページ)を参照してください。



3. アクセルレバーを[ (高速)]にして、エンジンの回転数を上げます。



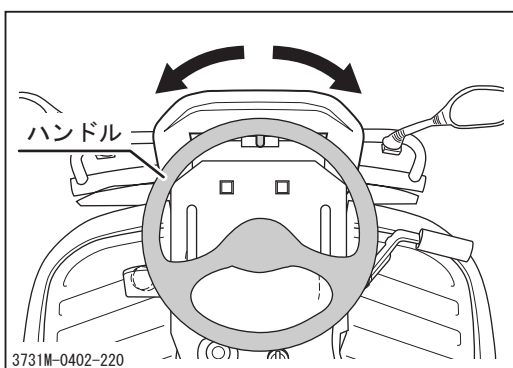
4. ブレーキペダルを奥まで踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを前方に押し解除します。



5. 走行ペダルを進行方向に徐々に踏み込み、車両を発進させます。

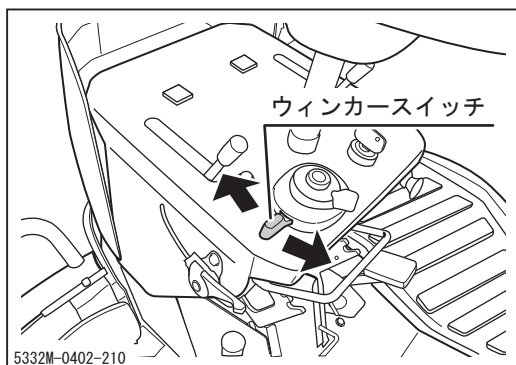
アドバイス

- ・ 走行ペダルを踏み込む量によって無段階に速度を調節することができます。



5. 走行レバーを進行方向に徐々に動かし、車両を発進させます。
6. 旋回をするときは、ハンドルを旋回したい方向に回転し、旋回します。

方向指示器のつかいかた

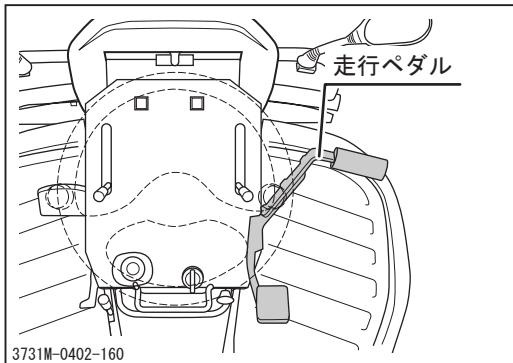


1. 左折時はウィンカースイッチを下に動かし、左のウィンカーを出します。左折を終えた後はスイッチを[● (中立)]位置に戻します。右折時は同様にスイッチを動かし、右折後中立に戻します。

停止のしかた

警告

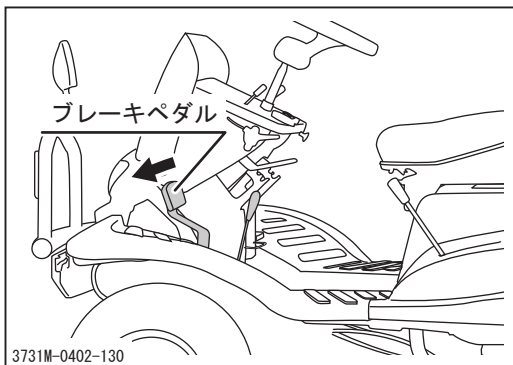
- ・急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- ・停止時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停止しないでください。
- ・燃えやすいものの近くには停止しないでください。



1. 走行ペダルを徐々に戻し、速度を落とします。
2. 走行ペダルからゆっくりと足を離します。

アドバイス

- ・走行ペダルは足を離すと自動的に中立に戻ります。急に足を離すと、急停止しますのでご注意ください。



3. ブレーキペダルを踏み込んで、車両を完全に停止します。

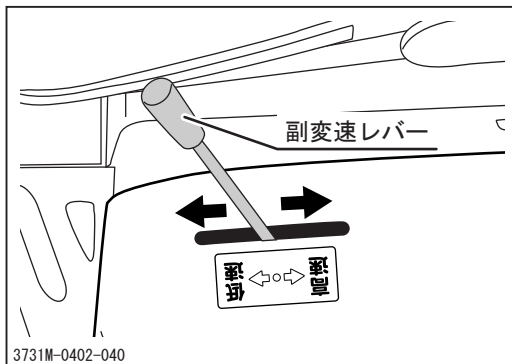
副変速操作のしかた

警告

- ・副変速操作は確実に行ってください。変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあります。

注意

- ・副変速操作は車両を停止してから行ってください。走行中に行うとトランスミッションを破損するおそれがあります。



1. 車両を確実に停止します。
2. 副変速レバーを[低速]または[高速]に確実に入れます。

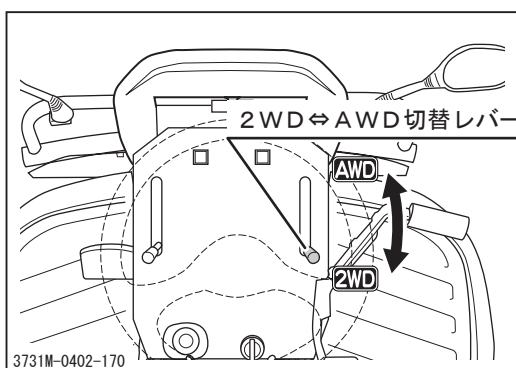
アドバイス

- ・ [高速]：空車、空荷の場合、
[低速]：積載時、傾斜地走行時に使用します。
- ・ 各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞12ページ）を参照してください。

2WD⇔AWD（四輪駆動）の切り替えかた

⚠ 注意

- ・ 2WD⇔AWDの切替操作は車両を停止してから行ってください。走行中に行うとトランスミッションを破損するおそれがあります。
- ・ 通常走行は2WDで走行してください。
- ・ AWD時は旋回半径が大きくなりますので注意して走行してください。



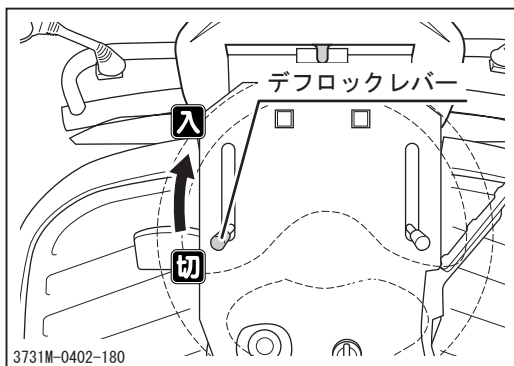
1. 車両を確実に停止します。
2. 2WD⇔AWD切替レバーを[2WD]または[AWD]に確実に入れます。

後輪スリップ時の回避のしかた

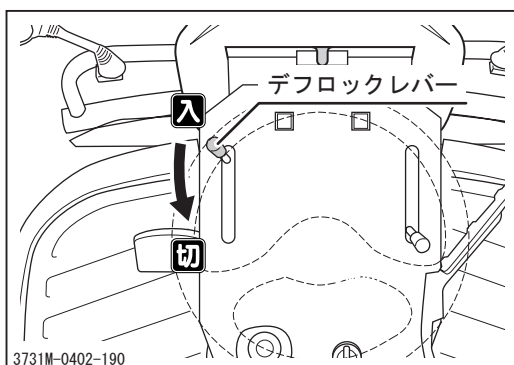
ぬかるみ等で後輪の片側がスリップする場合には、デフロックをすることでスリップを回避することができます。

注意

- ・ デフロックの操作は車両を停止してから行ってください。走行中に行うとトランスミッションを破損するおそれがあります。
- ・ 通常走行時は必ずデフロックを[切]にしてください。トランスミッションを破損するおそれがあります。
- ・ デフロックが[入]のまま旋回をしないでください。



1. デフロックレバーを[入]にします。
2. 副変速レバーを[低速]にします。
3. 車両をゆっくりと発進し、ぬかるみ等を脱出します。

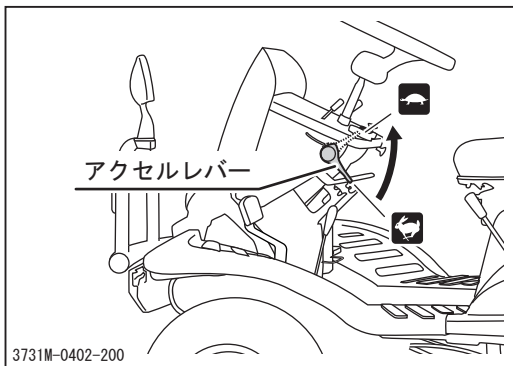


4. ぬかるみ等を脱出したら、デフロックレバーを[切]にします。

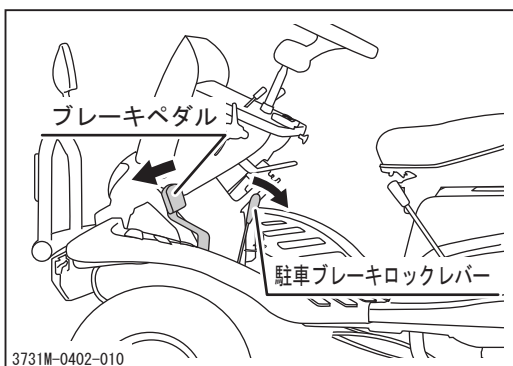
駐車のかた

警告

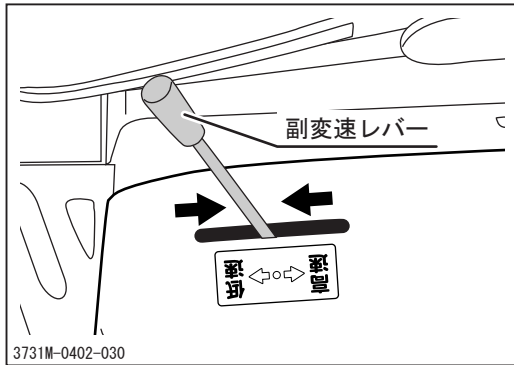
- ・ 駐車時は必ず駐車ブレーキをかけ、キーを抜き取ってください。
- ・ 駐車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。
- ・ 燃えやすいものの近くには駐車しないでください。
- ・ 傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。



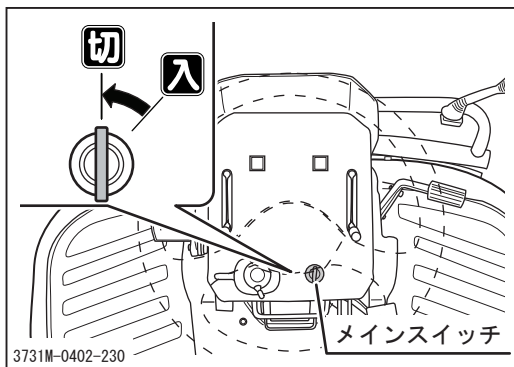
1. 車両を確実に停止します。
2. アクセルレバーを[(低速)]にして、エンジンの回転数を下げます。



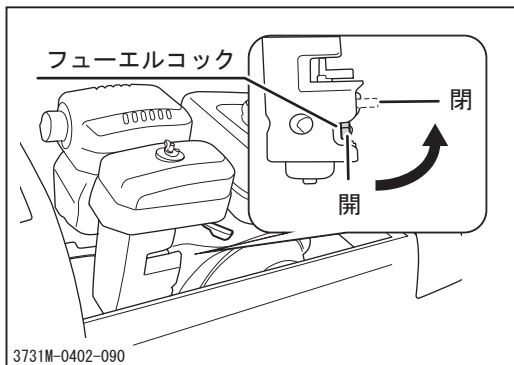
3. ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いてブレーキペダルをロックします。



4. 副変速レバーを[● (中立)]にします。



5. メインスイッチを[切]にして、エンジンを停止し、キーを抜き取ります。



6. エンジンカバーを開け、燃料コックを[閉]にし、エンジンカバーを閉じます。

作業のしかた

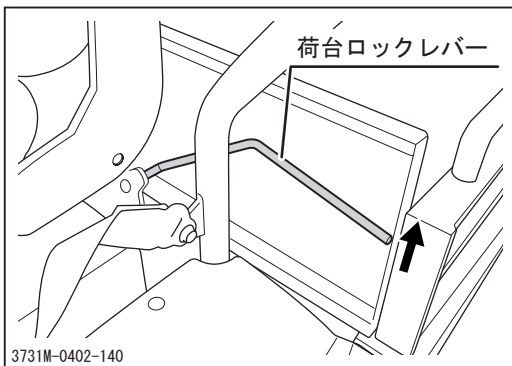
荷台の上げかた

⚠ 警告

- ・点検等で荷台を上昇させた場合には、必ず荷台落下防止棒で荷台を確実に支えてください。

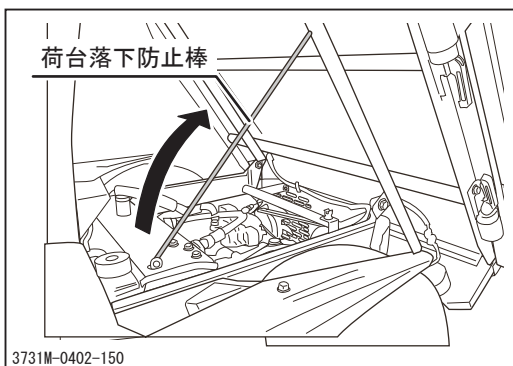
⚠ 注意

- ・荷台を下降させる前に、必ず荷台落下防止棒を元に戻してください。



1. シートを上げます。
2. 荷台ロックレバーを矢印の方向へ倒します。
3. 荷台を後方へ持ち上げます。

荷台落下防止棒の操作

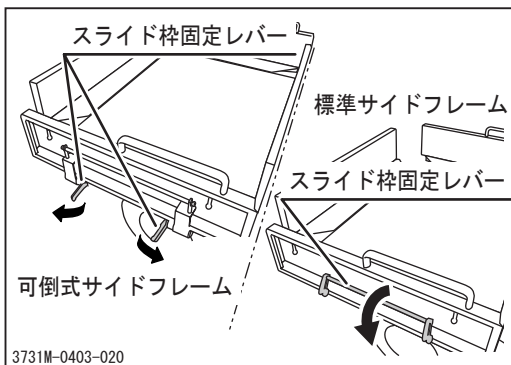


1. 荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えます。

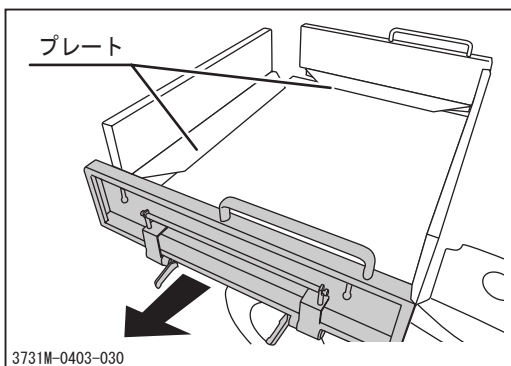
側板のスライド操作

⚠ 注意

- ・ スライド枠は必ず固定して使用してください。
- ・ スライド枠は、内側のプレートが荷台に10mm以上重なる範囲で使用してください。スライド枠が破損するおそれがあります。
- ・ スライド枠固定レバーを起こしたまま側板を倒すとスライド枠固定レバーが破損する恐れがあります。必ずレバーを倒してから側板を開いてください。
- ・ 公道走行時は、スライド枠を収納し、確実に固定して走行してください。



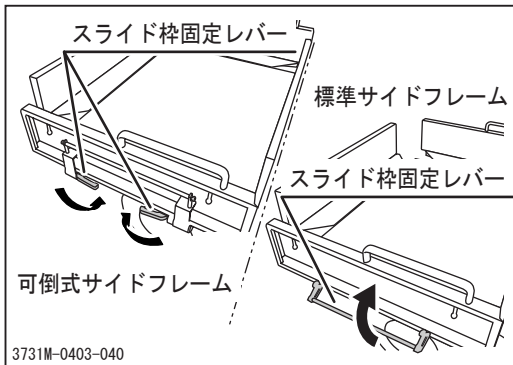
1. 可倒式サイドフレームの場合は、スライド固定レバーを外側に起こして固定を解除します。標準サイドフレームの場合は、スライド固定レバーを下に倒して固定を解除します。



2. スライド枠を任意の位置に調整します。

👉 アドバイス

- ・ スライド枠は、内側のプレートが荷台に10mm以上重なる範囲で使用してください。スライド枠が破損するおそれがあります。

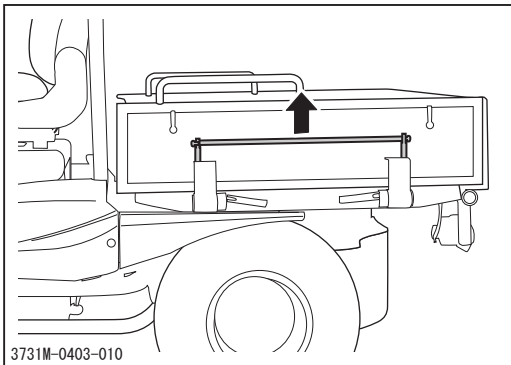


3. スライド枠固定レバーを倒して固定します。

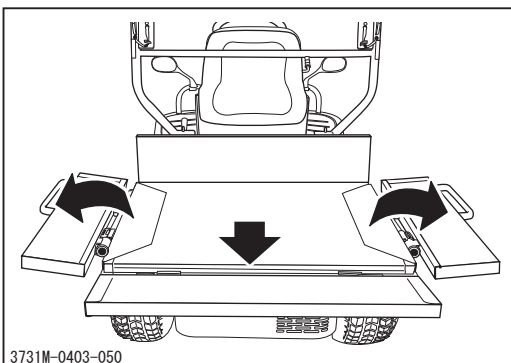
側板および前ドアの開閉（可倒式サイドフレーム仕様）

⚠ 注意

- ・ 側板を開いた状態で側板の上には乗らないでください。思わぬ事故を引き起こす原因となります。



1. ロックレバーを引き、ロックを解除します。



2. 側板を開きます。
3. 側板が水平位置まで倒れたら、ロックレバーを戻し、側板を固定します。

定期点検表

⚠ 注 意

- ・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

エンジンの点検

日常点検

- ・エンジンオイルの量と汚れ
- ・エアクリーナエレメントの汚れ
- ・燃料、オイル等の漏れ
- ・各部ボルト緩み、破損
- ・異常振動、異常音

定期点検

項目	作業頻度
各部の清掃及び締付点検	8時間毎(毎日) (ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください)
エンジンオイル点検・補給	8時間毎(毎日) (ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください)
エンジンオイル交換	初回20時間目、2回目以降100時間毎
エアクリーナの清掃	50時間毎 (ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください)
点火プラグの清掃	100時間毎
燃料ストレーナの清掃	200時間毎
エアクリーナエレメントの交換	200時間毎 (販売店に依頼してください)
点火プラグ間隙清掃・調整	200時間毎 (販売店に依頼してください)
吸排気弁隙間点検・調整	300時間毎 (販売店に依頼してください)
シリンダヘッドカーボン除去	500時間毎 (販売店に依頼してください)
気化器清掃	500時間毎 (販売店に依頼してください)
吸排気弁座点検すり合わせ	500時間毎 (販売店に依頼してください)
燃料ホース交換	2年毎
オーバーホール	1000時間毎 (販売店に依頼してください)

車両の点検

- ・ 始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。
- ・ 下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店へ依頼してください。

項目	点検内容	点検時期			備考	
		始業	月次	年次		
走行	タイヤの空気圧が規定値内であること	○	○	○	☞46ページ	
	タイヤおよびホイールに亀裂、損傷または偏磨耗がないこと		○	○		
	ホイールボルトに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○		
	ホイールベアリング部にガタ、異音または異常発熱がないこと		○	○		
	トランスミッション		○	○		
			○	○		
	副変速		○	○		
			○	○		
	フロントアクスル		○	○		
			○	○		
	装置	H S T		○	○	
				○	○	☞49ページ
			○	○		
V ベルト			○	○		
			○	○		
ブレーキ		○	○	○	☞51ページ	
駐車ブレーキ			○	○		
ハンドル				○	○	
				○	○	
				○	○	
ロッドリンクワイヤ類		○	○			
		○	○			

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考	
		始 業	月 次	年 次		
車 体・ 安全 装置 等	車 枠	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
	お よ び	ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	カ バ ー	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		カバーの開閉またはロックに異常がないこと		○	○	
		取付ボルトに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
マ ー ク	警告、操作銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○		
電 装 品	充 電 装 置	正常に作動すること			○	
	バ ッ テ リ	電解液の量が規定範囲内にあること		○	○	☞52ページ
		端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
	ヘッドランプ ウインカーラ ンプ	正常に点灯すること	○	○	○	
		レンズに破損または水等の浸入がないこと		○	○	
	配 線	接続部に緩みがないこと		○	○	
配線に損傷がないこと			○	○		

給油・給水一覧表

項 目	補 給 (交 換) 時 期	推 奨 品	容 量
燃 料	随時	自動車用無鉛ガソリン	3.6ℓ
エ ン ジ ン オ イ ル	補給 毎日点検し不足時に補給 交換 初回：20時間 2回目以降：100時間毎	ガソリンエンジンオイル API分類 SE級以上 SAE分類 10W-30	0.6ℓ
トランスミッションオイル	交換 初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類 GL4または5 SAE分類 #80	0.9ℓ
フロントアクスルオイル	交換 初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類 GL4または5 SAE分類 #80	0.7ℓ
H S T オ イ ル	交換 1年または500時間毎	ガソリンエンジンオイル API分類 SE級以上 SAE分類 20W-50	4.0ℓ
バ ッ テ リ 液	補給 50時間毎に点検し不足時に補給	蒸留水	-

給脂一覧表

⚠ 注 意

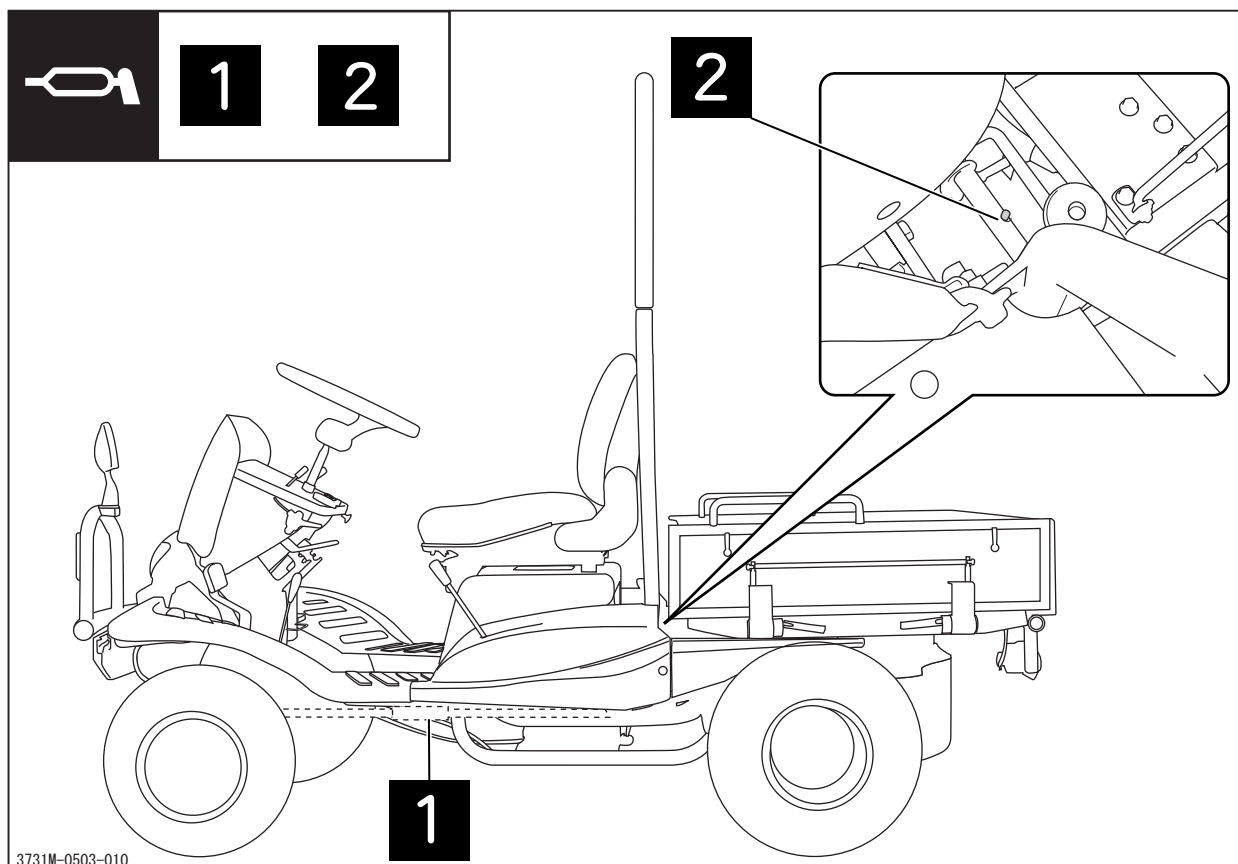
・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂を行ってください。

👉 アドバイス

- ・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突ってください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
- ・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。
- ・刈刃リンク支点の給脂は、刈高さを最も下げた位置で行ってください。

給脂一覧表

給 脂 箇 所	補 給 時 期	推 奨 品
1 プ ロ ペ ラ シ ャ フ ト	半年毎	シャーシグリース
2 レ バ ー 支 点	半年毎	シャーシグリース



消耗部品（交換部品）一覧表

⚠ 注 意

・弊社製品のメンテナンスや部品交換を実施される時は、必ず当社純正部品をご使用ください。純正部品以外をご使用になりますと、保証が適用されない場合もありますのでご注意ください。

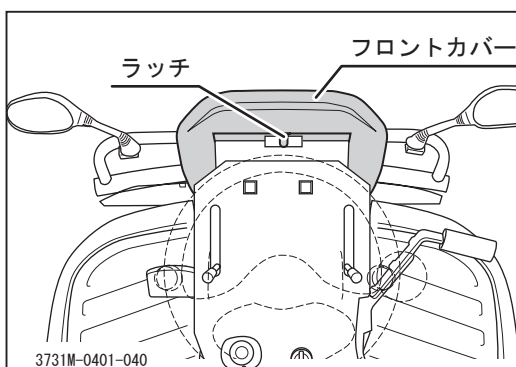
項 目	部品番号	交 換 イ ン タ ー バ ル	個 数
エンジン			
エアクリーナエレメントセット	277-32611-07	不具合があれば交換	1
点火プラグ (NGK BR-4HS)	065-01407-40	不具合があれば交換	1
フューエルパッキン	277-62110-18	不具合があれば交換	1
走行装置			
Vベルト (SGLB26)	08521600026	不具合があれば交換	1
Vベルト (SB40)	08521300040	不具合があれば交換	1
タイヤ (前輪)	34072302000	不具合があれば交換	2
タイヤ (後輪)	36882008000	不具合があれば交換	2
タイヤ (後輪)	37312302000	不具合があれば交換	2
ブレーキシューセット	73069901000	不具合があれば交換	1
ワイヤ (フロントブレーキ)	53323306000	不具合があれば交換	1
ワイヤ (リヤブレーキ)	37313315000	不具合があれば交換	1
ワイヤ (デフロック)	53323402000	不具合があれば交換	1
ワイヤ (AWD)	53323452000	不具合があれば交換	1
クーリングファン	73060037000	不具合があれば交換	1
電装品			
バッテリー (40B19R相当品)	37053901000	不具合があれば交換	1
ライトバルブ (ヘッドランプ)	53320203100	不具合があれば交換	1
ライトバルブ (スモールランプ)	09808120348	不具合があれば交換	2
ライトバルブ (ウィンカー前)	09808122104	不具合があれば交換	2
ライトバルブ (ウィンカー後)	09808122104	不具合があれば交換	2
ヒューズ (20A)	09801002002	不具合があれば交換	1
ヒューズ (15A)	09801001502	不具合があれば交換	1
パイロットランプ	09808120348	不具合があれば交換	1

カバールの開けかたおよび取り外しかた

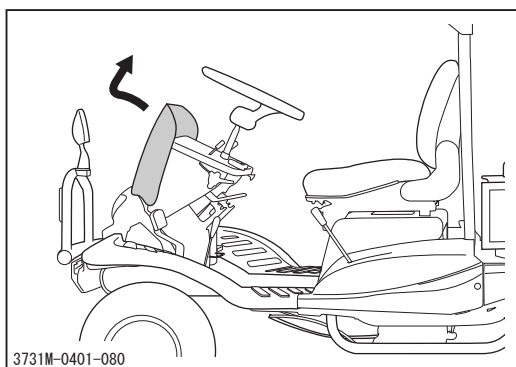
⚠ 注意

- ・カバールの開閉時および取り付け・取り外し時に手や指をはさまないように十分注意してください。
- ・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

フロントカバーの取り外しかた



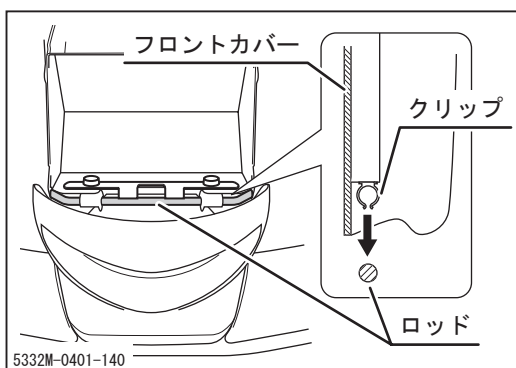
1. フロントカバーの上端を引いてラッチを解除します。



2. フロントカバーを上を引き抜きます。

👉 アドバイス

- ・フロントカバーの中は工具箱になっています。工具などの収納にお使いください。

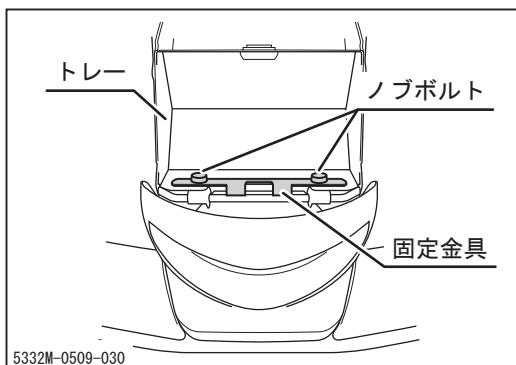


3. 取り付けるときはハンドルの角度をいちばん上に上げ、フロントカバー裏側のクリップをロッドにはめ込みます。
4. フロントカバー上部をはめ込みます。

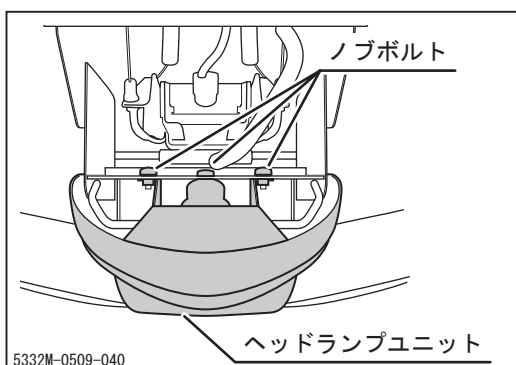
👉 アドバイス

- ・フロントカバー取り付け時に、フロントカバーが左右のプレートに挟み込まれないように注意してください。

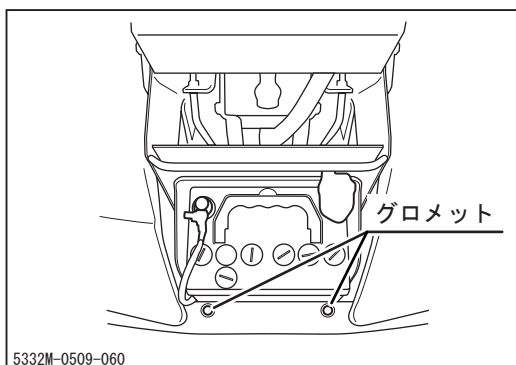
ヘッドランプの取り外しかた



1. フロントカバーを取り外します。
2. トレーを固定しているノブボルト2本を取り外します。
3. 固定金具を取り外しトレーを上にはずらします。

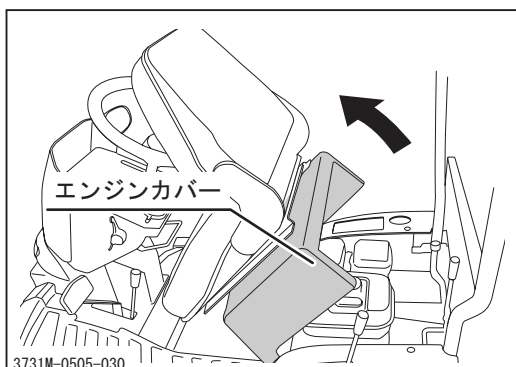


4. ヘッドランプユニットを固定しているノブボルト3本、カプラを取り外し、ヘッドランプユニットを取り外します。



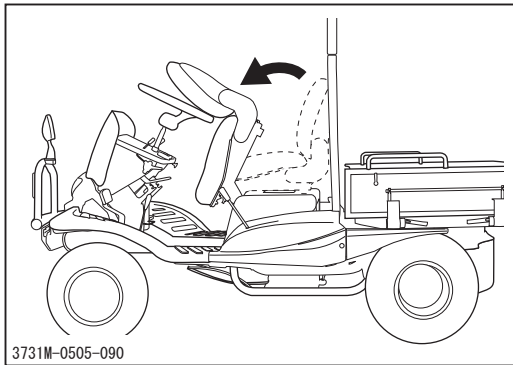
5. 取り付け時はヘッドランプユニットの底面の突起をバンパーのグロメット穴に挿入し、取り外しと逆の要領で取り付けます。

エンジンカバーの開けかた



1. シートとエンジンカバーを一緒に前方へ起こし、エンジンカバーを開けます。

シートの開けかた

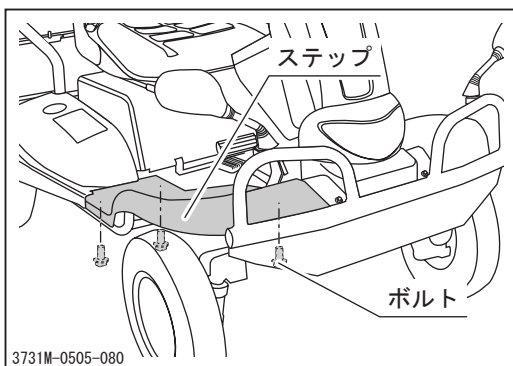


1. シートを前方に起こします。

👉 **アドバイス**

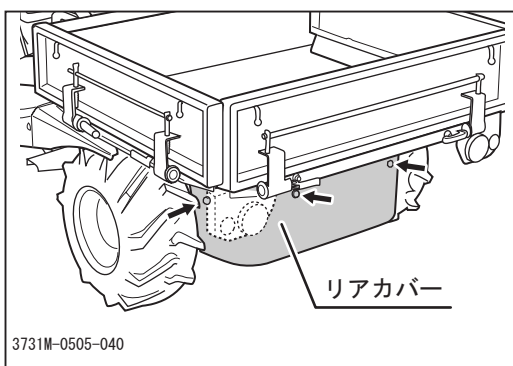
- ・シートを動かし、確実に固定されていることを確認します。

ステップの取り外しかた



1. ステップを取り付けているボルト（3本）を外します。
2. ステップを取り外します。
3. 反対側も同様に取り外します。

リアカバー下の取り外しかた



1. ボルト（4本）を取り外します。
2. リアカバー下を取り外します。

エンジン

⚠ 警告

- ・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
- ・エンジン停止直後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。
- ・エンジンの整備時は火気を近づけないでください。
- ・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

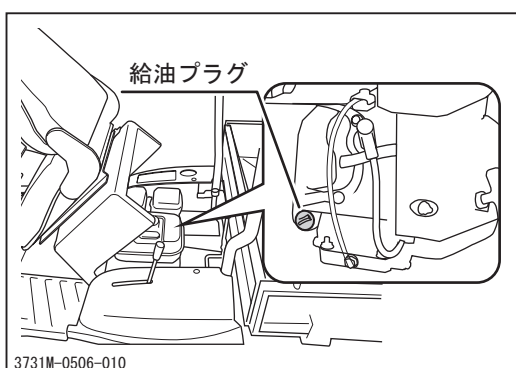
エンジンオイルの点検・補給・交換

⚠ 注意

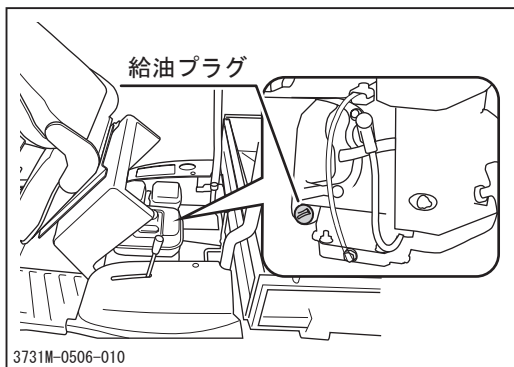
- ・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

👉 アドバイス

- ・オイル量はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。
- ・指定オイル：👉37ページ
- ・オイル量：👉37ページ

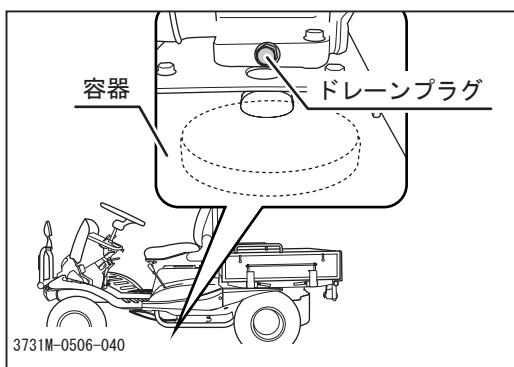
**点検**

1. 車体を水平な場所に駐車します。
2. エンジンカバーを開けます。
3. 給油プラグを取り外します。
4. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、オイルの点検を行います。
5. 給油プラグを取り付けます。
6. エンジンカバーを閉じます。



補給

1. エンジンカバーを開けます。
2. 給油プラグを取り外します。
3. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従ってオイルの補給を行います。
4. オイル量を点検します。
5. 給油プラグを取り付けます。
6. エンジンカバーを閉めます。



交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
4. ドレーンプラグを取り付けます。
5. オイルを補給します。

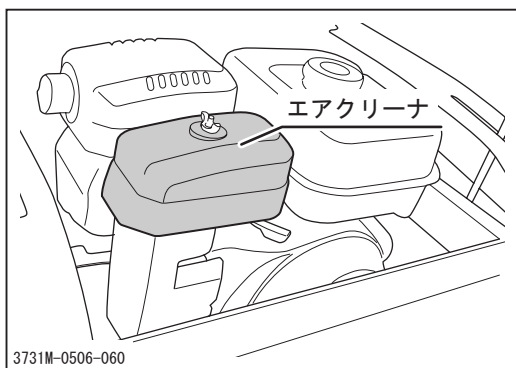
アドバイス

- ・図の様に車体左側面のドレーンプラグ下には排出用の穴があります。

エアクリーナの清掃・交換

⚠ 注意

・エアクリーナエレメントの清掃は毎日行ってください。エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こします。

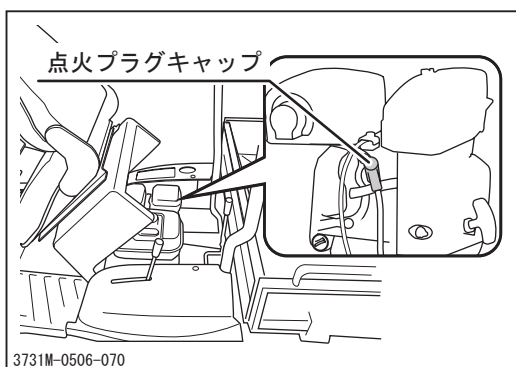


1. エンジンカバーを開けます。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、エアクリーナエレメントの清掃・交換を行います。
3. エンジンカバーを閉めます。

点火プラグの点検・清掃・交換

⚠ 注意

・点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。



1. エンジンカバーを開けます。
2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、点火プラグの点検・清掃・交換を行います。
3. エンジンカバーを閉めます。

走行装置

警告

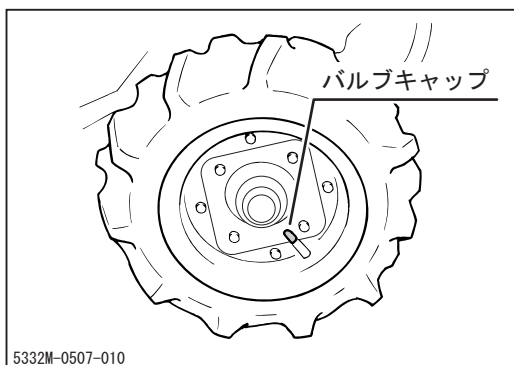
- ・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
- ・エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。
- ・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

タイヤ空気圧の点検・調整

注意

- ・タイヤは必ず指定の空気圧で使用してください。異常磨耗や損傷のおそれがあります。

J67	タイヤサイズ	空気圧 KPa (kgf/cm ²)
標準仕様 前輪 (ターフタイヤ)	HC 4.00-8 (6PR)	350 (3.5)
A G タイヤ仕様 後輪	17×8.00-8 (4PR)	240 (2.4)
ターフタイヤ仕様 後輪	18×8.50-8 (4PR)	160 (1.6)

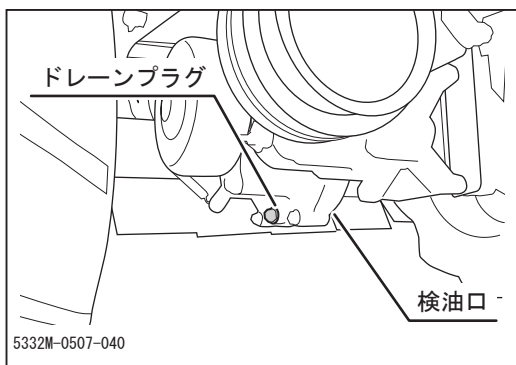


1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. バルブキャップを取り外します。
3. タイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整します。
4. バルブキャップを取り付けます。

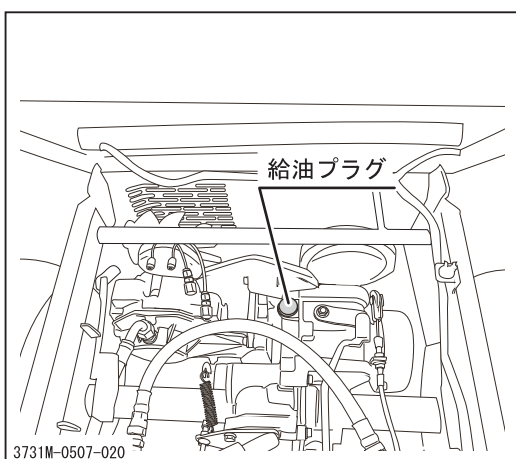
トランスミッションオイルの交換

👉 アドバイス

- ・ 指定オイル : 📖37ページ
- ・ オイル量 : 📖37ページ



1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルを抜き取る適切な容器を用意します。
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
4. ドレーンプラグを取り付けます。

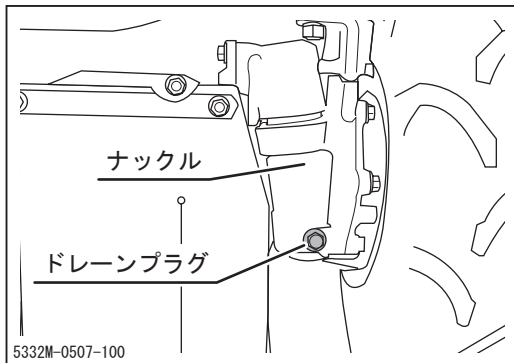


5. 荷台を上げ、落下防止棒を使用します。
6. 給油プラグを取り外します。
7. 検油口プラグを取り外します。
8. 給油口より指定のオイルを、検油口の位置まで補給します。
9. 検油口プラグを取り付けます。
10. 給油プラグを取り付けます。
11. 荷台を下ろします。

フロントアクスルオイルの交換

👉 アドバイス

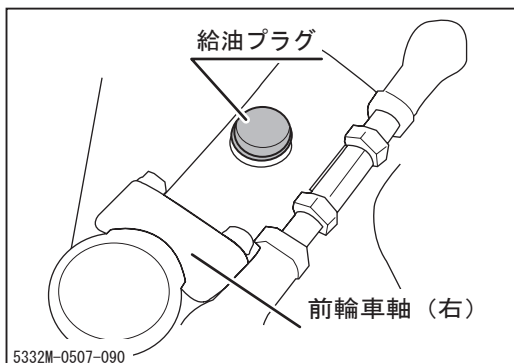
- ・指定オイル：☞37ページ
- ・オイル量：☞37ページ



1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルを抜き取る適切な容器を用意します。
3. 左前輪ナックルのドレインプラグを取り外し、オイルを排出します。
4. 右ナックルも同様にドレインプラグを取り外し、オイルを排出します。

👉 アドバイス

- ・右側ドレインプラグは車軸の後方にあります。

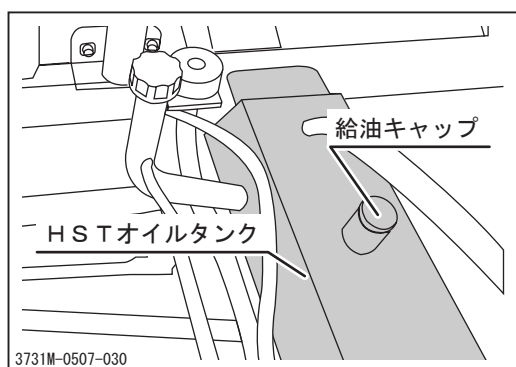


5. 左右のドレインプラグを取り付けます。
6. 右側ステップを取り外します。
7. 給油プラグを取り外します。
8. 給油口より指定のオイルを規定量補給します。
9. 給油プラグを取り付けます。
10. ステップを取り付けます。

HSTオイルの点検・補給

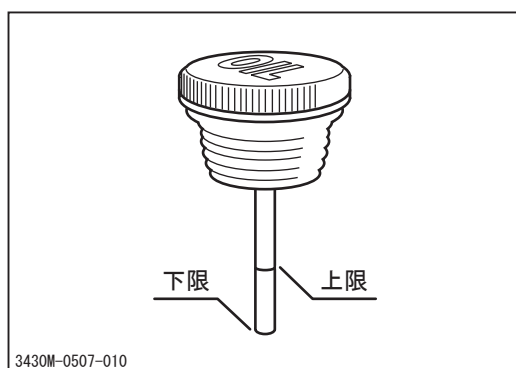
アドバイス

- ・オイル量の点検はエンジン始動前かHSTオイルが十分冷えてから行ってください。エンジン停止直後はオイルが膨張しており、正確なオイル量が点検できません。
- ・オイルが十分冷えた状態で、[MIN]の位置に油面があれば十分です。
- ・[MAX]の位置以上までオイルを入れしないでください。オイルが膨張してあふれることがあります。
- ・指定オイル、規定オイル量：☞37ページ



点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. 荷台を上げ、荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えます。
3. HSTオイルタンクの給油キャップを取り外し、レベルゲージからオイルを拭き取ります。
4. 給油キャップを一度ねじ込んでから取り外し、オイル量を点検します。レベルゲージの[M I N]より少ない場合は補給します。
4. 荷台を下ろします。



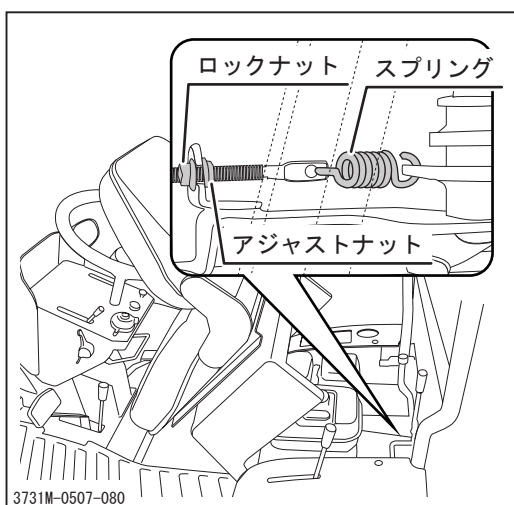
補給

1. エンジンカバーを開けます。
2. 給油キャップを取り外します。
3. 給油口より指定のオイルを補給します。レベルゲージの[M I N]の位置まで補給します。
4. 給油キャップを取り付けます。
5. エンジンカバーを閉めます。

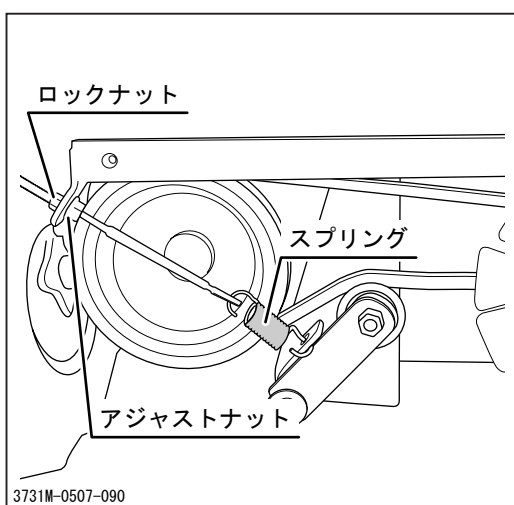
走行Vベルトの点検・調整

⚠ 注意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。



1. エンジンカバーを開けます。
2. スプリングの伸びが3～4mmの範囲にあるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。
3. Vベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
4. エンジンカバーを閉めます。



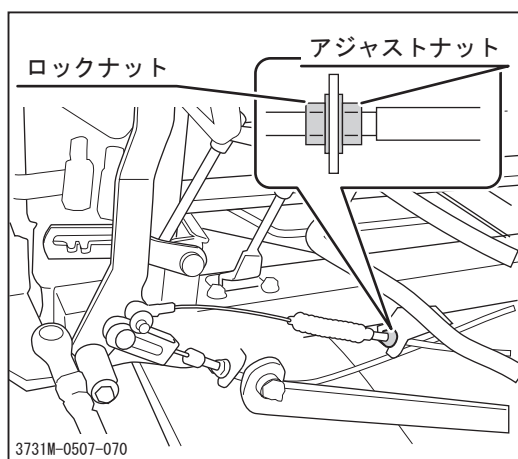
1. リヤカバー下を取り外します。(P. 41参照)
2. Vベルトの張りを点検します。スプリングの伸びが3～4mmの範囲にあるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。
3. Vベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
4. リヤカバーを取り外します。

ブレーキの点検・調整

警告

・ブレーキの効きが悪くなった場合は、すぐに点検・調整をしてください。

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. 左側のステップを取り外します。



3. ロックナットを緩めます。
4. ブレーキペダルがロックされていない状態でブレーキが引きずらないようにアジャストナットで調整します。
5. ブレーキペダルをロックし、ブレーキがかかり、ペダルが確実にロックするように調整します。
6. ロックナットを締めます。

アドバイス

- ・ブレーキペダルをロックした状態でブレーキがかからない場合はシューが磨耗しています。販売店へお問合せのうえ、交換してください。

電装品

 警告

- ・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
- ・ぬれた手で作業を行わないでください。感電のおそれがあります。

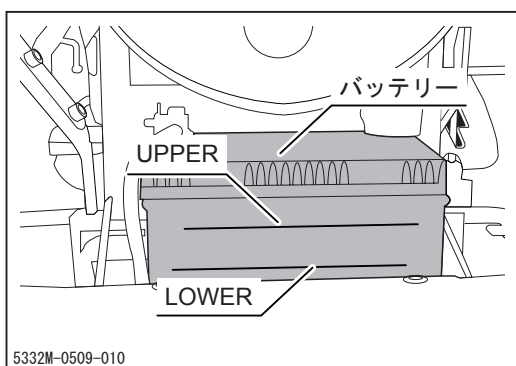
バッテリー液の点検・補給・充電

 警告

- ・バッテリー液量が[LOWER LEVEL]以下になったままで使用または充電をしないでください。バッテリーの寿命を著しく縮めます。また、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- ・バッテリー液（希硫酸）が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- ・バッテリーに火気を近づけないでください。
- ・バッテリーの充電は車両から取り外して行ってください。
- ・バッテリーの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。

▲ 注 意

- ・ バッテリー液を補給する時は、バッテリー液量が[UPPER LEVEL]以上になるまで補給をしないでください。バッテリー液がもれて塗装面を傷つけたり、部品を腐食させたりするおそれがあります。
- ・ バッテリーを充電するときは、使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。
- ・ バッテリー端子を取り外すときは[-]端子から取り外し、取り付けるときは[+]端子から取り付けてください。[+]端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。
- ・ バッテリー端子をバッテリーに取り付けるときには[+]と[-]を間違えないでください。また、端子はしっかりと取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。

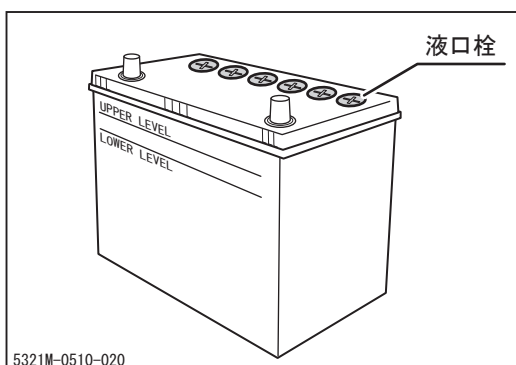


点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. フロントカバーを取り外します。
3. バッテリー液量が[UPPER LEVEL] (以下U.L) と [LOWER LEVEL] (以下L.L) の間にあることを確認します。
4. バッテリー液量が[L.L]に近い場合は補給します。
5. フロントカバーを取り付けます。

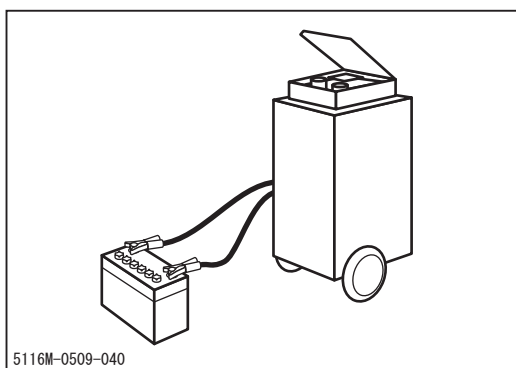
👉 アドバイス

- ・ フロントカバー裏にヘッドランプ及びバッテリーの取り外し方が表示されています。



補給

1. フロントカバーを取り外します。
2. バッテリーを取り外します。
3. 液口栓を取り外します。
4. 蒸留水を[U.L]まで補給してください。
5. 液口栓を取り付けます。
6. バッテリーを取り付けます。
7. フロントカバーを取り付けます。



充電

1. フロントカバーを取り外します。
2. バッテリーを取り外します。
3. 充電器の取扱説明書に従い、バッテリーを充電します。
4. 充電が終了したらバッテリーを車両に取り付けます。
5. フロントカバーを取り付けます。

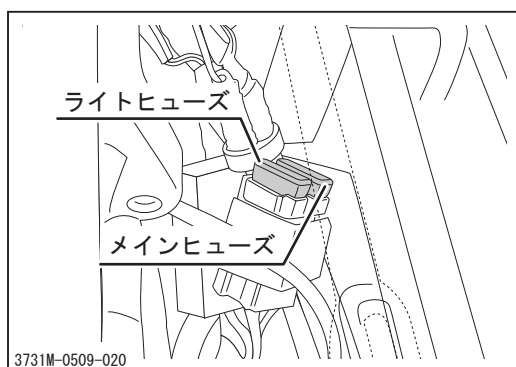
ヒューズの点検・交換

⚠ 注意

- ・ ヒューズが切れているときは、原因を調査し、修理をしてから交換してください。
- ・ ヒューズは指定容量のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。

👉 アドバイス

- ・ メイン：20A、ライト：15A
- ・ 指定ヒューズ：👉39ページ



1. エンジンカバーを開けます。
2. ヒューズを取り外し、ヒューズが切れていないかをチェックします。切れている場合にはヒューズを交換します。
3. ヒューズを取り付けます。
4. エンジンカバーを閉めます。

👉 アドバイス

- ・ ヒューズはエンジンカバーを開け、左側にあります。

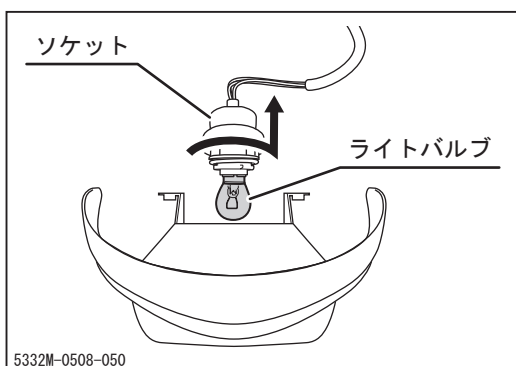
ライトバルブの交換

⚠ 注意

- ・ ライトバルブが切れた場合はすぐに新品と交換してください
- ・ ライトバルブは指定のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。
- ・ ライトバルブを素手で触らないでください。バルブの寿命が縮まるおそれがあります。

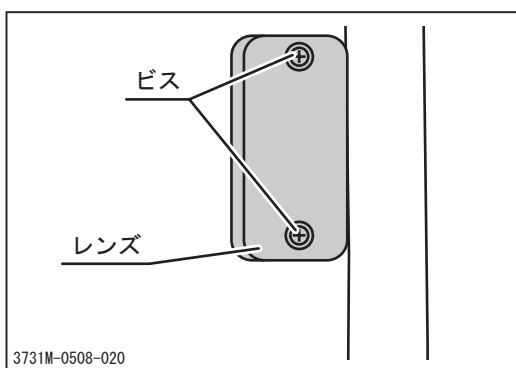
👉 アドバイス

- ・ 指定バルブ：👉39ページ



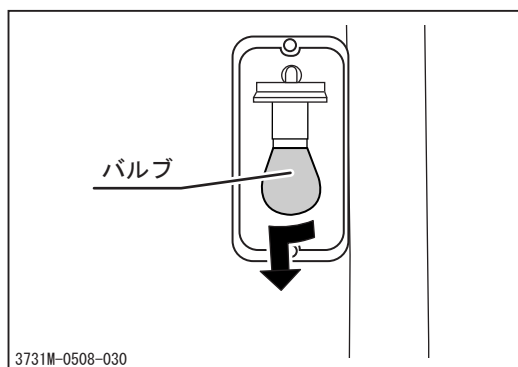
ヘッドランプ

1. フロントカバー、ヘッドランプを外します。
2. ソケットを回してライトより取り外します。
3. ライトバルブを新品と交換します。
4. ソケットをライトに取り付けます。
5. ヘッドランプ、フロントカバーを取り付けます。

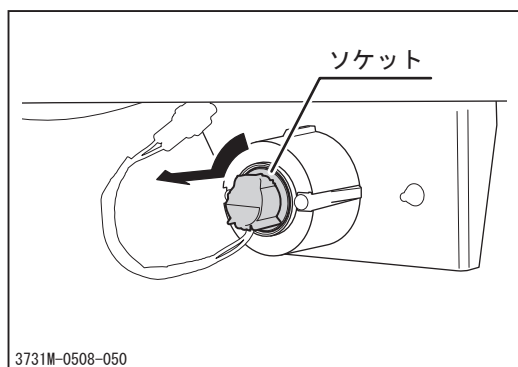


方向指示器（前部）

1. ビス（2本）を取り外し、レンズを取はずします。



2. バルブを新品と交換します。
3. レンズを取り付けます。



方向指示器（後部）

1. ソケットを取り外します。
2. バルブを新品と交換します。
3. ソケットを取り付けます。

使用後のお手入れ

注 意

- ・ エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・ 付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・ 凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
3. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

⚠ 警告

- ・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

⚠ 注意

- ・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. 車両を駐車します。
2. 車両に堆積した草や付着した泥等を取り除きます。
3. 「定期点検表」(☞34ページ)に従って各箇所の点検を行い、不具合があれば清掃します。
4. 鋼板部分を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。
5. エンジンオイルを交換します。
6. エアクリーナエレメントを清掃します。
7. キャブレタおよび燃料タンク内の燃料を抜き取ります。
8. タイヤの空気圧を標準より高めにして、前輪の前後に輪止めをします。
9. 車両からバッテリーを取り外し、バッテリー液の点検・補給・充電を行います。
10. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

👉 アドバイス

- ・バッテリーは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリーを長持ちさせることができます。
- ・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

不具合診断表

- ・ 不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店へ連絡してください。
- ・ 下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店へ依頼してください。

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
エンジン 関 連	エンジンがかからない またはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	14ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		バッテリーの容量不足	→バッテリー液を補給する	52ページ
			→バッテリーを充電する	52ページ
			→バッテリーを交換する	
		バッテリー端子の外れまたは断線	→接続または修理する	
		エンジンオイルの不足または品質不良	→補給または交換する	43ページ
		点火プラグの汚れ等による着火不良	→清掃または交換する	44ページ
	始動安全スイッチの不良または調整不良	→調整または交換する		
	その他（上記以外）	→「始動のしかた」の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	19ページ	
	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	14ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	14ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
アイドル不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	45ページ	
	その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください		

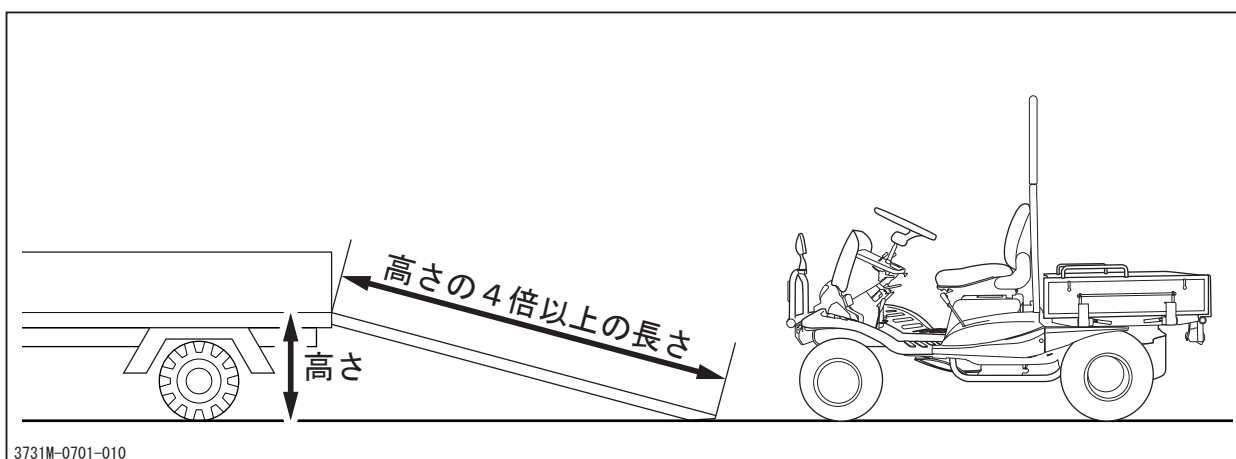
発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
エ ン ジ ン 関 連	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	45ページ
		Vベルトの緩み	→調整する	50ページ
		過負荷	→負荷を減らす	
		駐車ブレーキの調整不良	→調整する	51ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせ ください	
	エンジンまたはエンジン 付近から異音または振動 がする		→販売店へお問い合わせ ください	
	エンジンオイルの消費が 早い		→販売店へお問い合わせ ください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	43ページ
		ローテティングスクリー ン、冷却フィンが目詰まり	→清掃する	
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	45ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせ ください	
	黒煙が多量に出る (排気状態の不良)	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	45ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせ ください	
	白煙が多量に出る (排気状態の不良)	燃料不良	→交換する	
エンジンオイルが入り過 ぎている		→点検後オイル量を調整 する	43ページ	
エンジンオイルの粘度不 適正		→適正なオイルと交換す る	43ページ	
その他（上記以外）		→販売店へお問い合わせ ください		
走 行 装 置 関 連	走行ペダルを動かしても 車両が動かない	HSTオイルの不足	→補給する	49ページ
		駐車ブレーキが効いてい る	→駐車ブレーキを解除す る	
		Vベルトの緩み	→調整する	50ページ
		その他（上記以外）	→「 運転のしかた 」の手 順に従って運転を試み、 走行不可能の場合は販 売店へお問い合わせせ ください	19ページ

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
走行装置 関 連	走行ペダルを中立にしても車両が動く	HSTの中立が狂っている	→販売店へお問い合わせください	
		ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
	ギヤ抜けする	その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
		タイヤ空気圧の調整不良	→調整する	46ページ
	旋回が円滑に行えない	その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	タイロッドの調整不良	→販売店へお問い合わせください		
制 動 装 置 関 連	ブレーキおよび駐車ブレーキの効きが悪いまたは片効きする	調整不良	→調整する	51ページ
		ブレーキドラム内に水が浸入	→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
車 体 関 連	車体の異常振動	タイヤ空気圧の調整不良	→調整する	46ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
車 体 関 連	後ドアの開閉不良	ドアロックの調整不良	→調整する	
電 装 品	前照灯の点灯不良	バルブ切れ	→交換する	55ページ
		ヒューズ切れ	→交換する	54ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警告

- ・トラックは平坦な場所に止め、必ずパーキングブレーキ（駐車ブレーキ）をかけ輪止めをしてください。
- ・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。
- ・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- ・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。
- ・前進でゆっくりと積み込んでください。
- ・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。
- ・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。



1. トラックを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけて輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差なく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 副変速レバーを[低速]にし、前進でゆっくりと積み込みます。
4. 「駐車のしかた」（[p.29](#)ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。

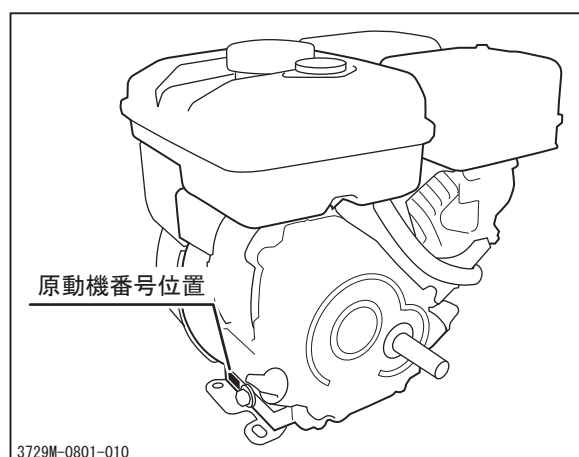
小型特殊自動車登録申請の手引き

本製品の所有者となった方は、市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。

手続きの詳細については市町村役場でお尋ねください。

搭載エンジン	スバルEX17
種別用途	小型特殊自動車
車名	チクスイJ67
型式	チクスイJ67
年式	年式は購入された年を記入してください
原動機番号	エンジンの打刻を見て記入してください
原動機総排気量	169cc
車台番号	車台番号は車両中央左側の本体フレームに打刻してあります
型式認定番号	申請準備中
形状	ホイールキャリア

原動機番号位置



車台番号位置

